

a&S

The Professional Magazine Providing Total Security Solutions
JAPAN
www.asj-corp.jp Sep/Oct. 2017 no.60

- **特集** 集：ディープ・ラーニングが推進するスマートカメラによる先端での解析
- **製品特集**：マルチサイト監視をもっと簡単に正しく構築する
- **業種別市場**：スマート技術を利用した職場の変革

「さまざまな分野で高い評価」



Video Intelligence

株式会社 ジャバテル



WISeNET X series

防犯カメラの標準を定義する

WiseStream II / 低照度強化 / WDR 150dB / DIS with Gyro Sensor / 音声分類機能

Hanwha Techwin Co., Ltd
〒13488 韓国京畿道城南市盆唐区三坪洞701
Tel : +82.70.7147.7000 Fax : +82.2.729.5880
www.hanwha-security.com

販売代理店
株式会社ティービーアイ
東京都中央区京橋2丁目2番1号 京橋エドグラン 28階
Tel : 03.6841.8200 FAX : 03.6841.8299
www.tbeye.com

販売代理店
兼松サステック株式会社
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-3-2トルナーレ
Tel : 03.6631.6581 FAX : 03.6631.6639
www.ksustech.co.jp

 **Hanwha Techwin**
Formerly Samsung Techwin



4K アナログHD 4K 世代の映像監視へ

同軸ケーブルを使用した 4K 対応カメラ 日本上陸

HDCVI 4.0 4K

- 4K HDCVI BOX カメラ : 4/3 インチセンサー搭載 超高精細/超高感度/超 WDR140dB
- 4K HDCVI バレット/ドームカメラ : ハイパワーLED 採用による 100m/50mIR 照明搭載 IP67,IK10
- 4K HDCVI マルチセンサーバレットカメラ : 180°パノラマビュー
- 4K 360°HDCVI フィッシュアイカメラ : 同軸初、全方位カメラ 多彩なデワープ機能
- 既存の HDCVI カメラ/HCVR レコーダーとの互換性を確保
- 同軸ケーブル(RG59)で 500m~の長距離伝送が可能



HAC-HF3805G
4/3" 4K HDCVI
Starlight+ Box Camera



HAC-HFW3802E-Z
4K HDCVI WDR
IR-Bullet Camera



HAC-PFW3601-A180
4K HDCVI Multi-sensor
Panoramic IR-Bullet Camera



HAC-EBW3802
4K HDCVI
IR-Fisheye Camera



HAC-HDBW3802E-Z
4K HDCVI WDR
IR-Dome Camera



HCVR7000
4K HDCVI Recorder

CE FC CCC UL ROHS ISO 9001:2000



DAHUA TECHNOLOGY

No.1199 Bin'an Road, Binjiang District, Hangzhou, China. 310053
Tel: +86-571-87688883 Fax: +86-571-87688815
Email: overseas@dahuatech.com
www.dahuasecurity.com

DAHUA社日本正規代理店
三星ダイヤモンド工業株式会社

本社西日本営業所
〒566-0034大阪府摂津市香露園32-12
Tel: 072-648-7526 Fax:072-648-7582
東日本営業所
〒222-0033神奈川県横浜市港北区新横浜2-3-4
Tel: 045-548-4731 Fax:045-548-4732
URL:http://www.mitsuboshidiamond.com



目次

表紙解説	
GENETEC Security Center, JAVATEL Docokame	4 - 5
特集	
スマート技術を利用した職場の変革	18
製品特集	
マルチサイト監視をもっと簡単に正しく構築	22
業種別市場	
スマート技術を利用した職場の変革	26

キーマン・インタビュー	
SUPREMA社常務取締役イ・スンヨプ氏と 店舗プランニング社長飛永泰男氏に聞く	16

連載
連載記事は、都合により休載といたします

イベント情報	
GDSF JAPAN 2017 直前情報	36
展示会、プライベートショー日程	38

産業/製品情報	8, 10, 12 - 15
読者の声	40



広告索引

広告主名 (ABC順)	掲載ページ
ASIS 2017	31
DAHUA TECHNOLOGY CO. LTD.,	1
DYNACOLOR JAPAN	9
GDSF JAPAN 2017	32
HANWHA TECHIN	表二
HIKVISION DIGITAL TECHNOLOGY	3
ジャバテル	表一、4-5、6-7
MESSE FRANKFURT NEW ERA BUSINESS MEDIA	37
日本経済新聞社	表三
店舗プランニング	表四
VIVOTEK	11

次号案内 2017年 11/12月号 (11月10日発行予定)

(誌面の都合上、変更になることがあります)

特集
IoT時代のセキュリティ・システム

製品特集
顔認証

業種別市場
カジノ

連載
市場慧眼、技術探訪

a&s JAPAN ©ASJ社 2017年 9-10月号 No.60
The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

発行人 小森堅司 DTP サンフィール

a&s JAPANは、Messe Frankfurt New Era Media発行のa&s International、a&s Asiaをはじめとするa&s各誌の独占翻訳権を特約して発行するセキュリティ国際情報誌です。

ASJ合同会社
Advanced Security Journal LLC
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-7-1ウィン神田ビル10階
電話：03-6206-0448 FAX：03-6206-0452

■広告に関するお問い合わせは
E-mail：komori@asj-corp.jp

■購読に関するお問い合わせは
E-mail：reader@asj-corp.jp

■記事情報提供に関するお問い合わせは
E-mail：info@asj-corp.jp

■DM代行サービスおよび電子メール配信サービス
当社では、企業の依頼によりDMまたは電子メールで情報をお届けすることがあります。これらのサービスでは、読者の皆様の個人情報を当該企業には一切公開しておりません。

DEEP LEARNING



データの新たな領域の探究

HIKVISION社ディープ・ラーニング・ソリューション

ディープ・ラーニングはAIのネクストステップです。
ディープ・ラーニングは「セルフ・ラーニング」を実装しており、現在手動で分類化とパターン化をアルゴリズムにセットする「機械学習」を超越しています。
Hikvision社独自の解析アルゴリズムは、ディープ・ラーニングの開発を継続的に推進することで、多層化学習および幅広い情報収集を行い、その精度を強化していきます。
ディープ・ラーニングが進化することにより、顔やクルマまた人の認識などのアプリケーション性能は飛躍的に高まります。
そして、Hikvision社は現在ディープ・ラーニングの開発に注力しています。



Hikvision Headquarters
No.555 Qianmo Road, Binjiang District
Hangzhou 310052, China
T +86 571 88075998
F +86 571 89935635
overseasbusiness@hikvision.com



Tel: 03-6806-0343
Email: info@jsecurity.jp
Url: <http://jsecurity.jp/>



Tel: 03-6230-3021
Fax: 03-6230-3023
Url: <http://www.security-d.com>

Genetec Security Center Omnicast (ビデオ)

次世代レンダリングエンジン

GPUによる跳躍した表示能力最大1000% up

- スムーズ逆再生/倍速(x2x4~x100)逆再生
- スムーズ倍速(x2x4~x100)再生
- スムーズスロー再生/逆再生
- 完全にシームレスなライブとプレイバック
- タイムシフトプレイバック
- ダイナミックサムネイル
- メタデータ囲み線ビューイング
- 欠落しないシーケンス表示

次世代レンダリングエンジン byエポックメイキング

競合他社のGPUサポートは殆ど無いか

Intel Quick Syncに限定されます。Quick Sync ではH.264に限定されそのパフォーマンスは限定的です。Genetec Security CenterではNVIDIA社のCUDAをサポートします。つまり、H.265においても有効だということです。

これは何をもたらしますか?

クライアントコストを激減します。 例) Core i3 + NVIDIA GTX-1050iでデュアルモニターでフルHD 15fpsを32同時表示を実現します。

セキュリティワークフロー

- 脅威レベル管理
- ビジュアルトラッキングワンクリック追尾
- 高度に拡張された報告書
- リモート・セキュリティ・デスク
- アラームエスカレーション(統一アラーム管理)
- 最高度プリ/ポストアラーム
- プランマネージャーインターラクティブマップ
 - PTZカメラ方角、FOV(画角)の動的表示
 - GISグランドマップ
- ブックマークインサート
- PTZジョイスティック
- ジョグダイヤル(プロ用編集機のフィール)

アーカイブテクノロジー / 他

- 暗号化録画(AES-128)/暗号化接続(SSL)
- 暗号化ストリーミング(SRTP)
- 証拠レコーディング、ドラマのシナリオの様に

- アーカイブ転送/バックアップリストア
- 先進的な開発キット.netマクロ&ネイティブ
- ビデオトリッキングSD録画インテグレーション
- フェイルオーバーアーカイブ
- アウトサイドフェイルオーバーアーカイブ
- マルチキャストbyアーカイバー
- メタデータ録画
- 投下資産継承性
- 広範な拡張性

信頼性 / 拡張性 / 高度なインテグレーション

- フェイルオーバー
- アクティブ・ディレクトリー・インテグレーション
- システム可用性モニター
- システムヘルスとメンテナンス
- フェデレーション(連合)独立サイトの論理統合
- リダイレクター
- モバイルストリーミング
- Synergisアクセスコントロール
- ビジター管理、セキュアバッジのデザインと発行
- レネル / CCURE アクセスコントロールプラグイン
- BARCO CMS ビデオウォール
- SIPテレコム統合
- 侵入パネルの統合
- POSインテグレーション
- ビデオインポートツール オフサイト映像統合

豊富な画像解析サードパーティプラグイン

- ACIC AGENT-VI AllGoVision Axiomtek AXIS BOSCH
- BriefCam BRS Labs Cognimatics Davantis Digital Barriers
- Econolite Foxstream Ipsotek iView Systems KiwiSecurity
- NEC Panasonic Pixel Velocity Prism Skylabs PureTech
- Systems SightLogix SONY

画像解析サードパーティ byエポックメイキング

Digital Barriers社からディープランニングを応用したリアルタイム顔認証。

デジタルバリアは、さまざまな顔を区別する特有の特徴を学習することによって、顔を認識するためにニューラルネットワークを訓練するための深い学習アプローチを使用したと述べている。これは、典型的には、顔の様々な構成要素間の形状および距離(例えば、目の間隔、鼻と唇の間の距離など)を測定する従来のシステムとは対照的である。深い学習のアプローチで

は、以前のバージョンと比較して、一致を見つけたり、一致の不足を早く見つけることができます。これにより、顔のビューがデータベースに登録するために使用された画像と大きく異なる場合に、顔のマッチングを改善することもできます



Genetec Security Center Synergis (アクセスコントロール)

あなたの優先アクセス制御ハードウェアの選択

Synergisシステムは、広く普及している非独占的なアクセスコントロールモジュールと電子ロックの絶えず増大するアレイをサポートすることにより、アクセスコントロール投資の長期的な実行可能性を保護します。組織は、HID Global、Mercury Security、Axisのコントローラ、ASSA ABLOY、SALTO、Allegionの電子ロックなど、進化するニーズに最も適したハードウェアを選択することができます。Genetec™エコシステムが拡大し続ける中で、最新のAGSテクノロジーにアクセスできるようになります。リーダーインターフェースにはFelica / FIFARE / NFC / Bluetooth に対応します。

Javatel Docokame@VSS

監視用途において、ローエンドからミドルエンドに求められる先駆的な仕様を具現化しています。

- 1.インテリジェントビデオモーション検知 / ビルトイン画像解析
- 2.USBカメラを含む多様なカメラのサポート
- 3.CGIによるイベントIOハンドリング
- 4.Windows / MAC_OS / Linux / Androidをサポート

既に国内において著名機関、公共施設に納入実績多数。

組み込み型NVRでは構築不可能なインテリジェンス機能を低コストでご利用頂けます。 無料のお試しライセンスあります。

<http://docokame.com/download/vss>



Javatel Docokame@VMS

映像音声のストリーミングニーズは多様性を極めています。特にモバイルを活用したソリューションで圧倒のプレゼンスをジャバテルは提供します。



ジャバテルのご紹介

創業から20年、大阪で法人設立から10年を経てやっとスタート台に立てたかもしれません。ユーザー視点の徹底とプロフェッショナル・コンサルを通じて最良のセキュリティソリューションを提供し続けていく事が私たちの目標です。



Javatel

Video Intelligence

<http://javatel.co.jp> info@javatel.co.jp

大阪 / 東京 / 西宮 代表06-6354-0100



都市



教育



インフラ



ファシリティ



カジノ



法の執行者



パーキング



リテール



スタジアム



鉄道



空港



船舶



プラント



遊技場



重要文化財



工場



監視カメラ



ビデオウォール



ビデオウォール



アクセス
コントロール



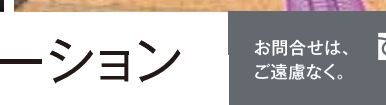
生体認証



サーバー



ネットワーク



侵入センサー



メンテナンス

ジャバテル ワンストップ ソリューション

お問い合わせは、
ご遠慮なく。 **0120-961-891**
info@javatel.co.jp



株式会社ロックシステム、澤和男氏が代表取締役社長に就任

ロックシステムは、2017年7月18日付けで澤 和男氏が代表取締役社長に就任した。創業者で27年間代表取締役社長を務めた澤 與志博氏は相談役に就任した。

同社は創業以来、人や物の管理の原点は「ゲート」であると考え、ゲート・セキュリティ・マネジメントを追求し、顧客の抱える課題や要望を様々な角度から柔軟に対応し幅広いサービスを提供してきた。

現在では、物理セキュリティを構成する全ての機器(入退室管理システム、監視カメラ、錠前、鍵、建具、その他出入口関係の機器)およびネットワーク構築、ソフトウェアの設計開発における「4S=選定(Selection)/施工管理(Site Management)/設定(Setting)/サービス(Service)」を提供している。



【会社概要】

社名 株式会社ロックシステム
所在地 〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町
 3-9-13 TVPビルディング 301A
設立年月日 平成2年(1990年)8月2日
資本金 2,600万円
業務内容 物理セキュリティ施工サービス業
URL: <http://www.locksystem.co.jp/>

【新社長略歴】

氏名 澤 和男(サワ カズオ)
生年月日 1981年(昭和56年)生まれ 36才
学歴・職歴 2004年(平成16年)4月 ロックシステム入社
 その後、南アフリカ大学への語学留学、MOBOTIX JAPAN出向、中小企業大学校留学を経験
 2015年(平成27年) 専務取締役就任

NXP、第29回夏季ユニバーシアードで15万人のアスリート、政府関係者、役員向けのイベント・パスを提供



NXPセミコンダクタズ社の非接触型スマート・ペーパー・チケット向けICのMIFARE Ultralight Nanoは、第29回台北夏季ユニバーシアードにおいて、アスリート、政府関係者、大学の指導者、VIPゲスト、役員など全世界からの参加者15万人の入場パスを実現する技術として使用された。競技会場、トレー

ニング・センター、選手村、食事プログラムのほか、開閉会式などのVIPイベントへのアクセス権を提供した。

台北夏季ユニバーシアードへのNXPのMIFAREベース・スマート・チケットの採用は、イベント・アクセスにMIFARE技術を使用する2017年の国際スポーツ・イベントとしては2回目になる。1回目に採用されたのは、2017年ロシアで開催されたFIFAコンフェデレーションズカップだった。

NXPジャパン URL: <http://www.nxp.com/jp/>

セキュア社、東京ショールームを開設

同社は、各種セキュリティ機器およびセキュリティ・システムの設計、開発、コンサルティング、販売レンタルサービス、施工、保守を手がける企業。

今回開設したショールームは、本社のある新宿区西新宿二丁目にある新宿住友ビル20Fで、大江戸線都庁前駅A6出口直結、丸ノ内線西新宿駅2番出口より徒歩4分、JR線・小田急線・京王線新宿駅西口より徒歩8分とアクセスの良い場所。

なお、営業日および営業時間は、月曜日～金曜日の10:00～18:00で、来場希望者は電話での事前予約が必要。



TEL: 03-6911-0660

URL: <http://www.secureinc.co.jp/>



街を守る 企業を守る 暮らしを守る

安全・安心・快適なオフィスセキュリティ & ホームセキュリティを実現します。



様々なニーズに対応する「プレミアムカスタマイズ」ソリューション



いつでも・どこでも・クリアで
安全な監視システム



DYNACOLOR
always watching

東京都千代田区平河町1-1-1 平河町コート202
TEL: (03) 3265-0037 FAX: (03) 3265-0038

e-mail: info@dynacolor.co.jp
http://www.dynacolor.co.jp



Hモデル
IRマイクログ・ボックス・カメラ



NシリーズNVR (4/8CH PoE内蔵)
ARMベースのH.265ネットワーク・ビデオ・レコーダー



Nモデル
IRミニ・ドーム・カメラ



NシリーズNVR (16/24CH PoE内蔵)
ARMベースのH.265ネットワーク・ビデオ・レコーダー



Jモデル
IRマイクログ・パレット・カメラ



会社の詳細をご覧ください

中国深圳で開催されるCPSE展示会に出展します。

CPSE安博会
10/29(日) ~ 11/1(水)
Shenzhen, China Booth No. 6C16

ベライゾン、藤井一弘氏を日本法人の執行役員社長に任命

ベライゾンジャパン合同会社は、藤井一弘氏をベライゾンジャパンの執行役員社長(Executive Officer and Area Vice President for Verizon Japan)に任命した。

藤井氏は、IBM社でキャリアをスタートし、同社に22年間勤務した。その間セールス、マーケティング、およびファイナンス・サービスの各部門で職務を経験し、最終的には同社サーバ・テクノロジーグループのセールス・ディレクターを務めた。その後、

オラクルおよびマイクロソフトの両社でも企業向けセールス部門担当の幹部として勤務。ベライゾン入社直前にはシノプシス・ソフトウェア・インテグリティ・グループに勤務し、同社の日本におけるセキュリティ・ソリューション事業を統括するカントリー・マネージャ職に就任していた。

URL : <http://www.verizon.jp/>

セキュリティデザイン社大阪営業所を移転

コーポレート・セキュリティのトータル・ソリューション・プロバイダであり、HIKVISION社の正規代理店であるセキュリティデザイン社は、大阪営業所を移転した。新住所は下記の通り。

〒540-0024 大阪市中央区南新町1-2-10 フルサトビル4F

TEL 06-4790-8010 FAX 06-4790-8011

最寄り駅は地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」駅徒歩1分(4番出口)

タムロン、NIR対応3メガピクセル・バリフォーカル・レンズを発売

本製品は、可視光域、近赤外光域の全域で高画質を実現した、3メガピクセル対応のバリフォーカルレンズ1/2.7型 2.8-13mm F/1.4モデルM13VG2813IR。



Model: M13VG2813IR

【主な特長】

●3メガピクセル対応の高い光学性能

非球面レンズやLD(異常低分散)レンズの採用と、高度な光学設計技術により、3メガピクセルカメラやフルHDカメラに対応する高画質を実現。また、開放F値をF/1.4とすることで、メガピクセルでありながら暗所での使用を可能にした。

●汎用性の高い焦点距離2.8-13mmをカバーし、ワイド端で水平画角125.1度を実現

メガピクセルに対応する高画質化を図りながら、最も使用頻度の高い焦点距離2.8-13mmをカバー。特に広角側の焦点距離を2.8mm(画角:125.1度)とすることで、部屋のコーナーに設置して部屋全体の撮影をすることが可能。

●NIR撮影時においても、メガピクセル画質を実現

最新の光学設計、使用するレンズ素材、加工精度の向上により、色収差や近赤外域の性能、周辺解像を大幅に改善、可視域だけでなく近赤外域もメガピクセルの画質を実現。これにより、可視光と近赤外光が入り交じる夜間で、隅々まで被写体をクリアに撮影することが可能。

●色ニジミ、フレアー、ゴーストの少ない描写を実現

色収差を極限まで低減する光学設計を行い、色ニジミの少ない描写を実現。高度な設計解析を駆使し、画像に悪影響を及ぼすレンズ面での光の反射を防ぎ、さらにマルチコートを採用することで、フレアー、ゴーストの少ない描写を実現。

●性能を最大限発揮できる高精度・高品質な構造を実現

全ての部品の精度を高め、かつ高度な製造技術により生産。像移動や片ボケなどの画質の劣化を防ぐ設計。

●カメラとのマッチング性向上

レンズ・マウント面からのレンズ(後玉)の出っ張りを配慮した設計により、カメラ内の構造物と干渉することなく、ほとんどのカメラに装着可能。

【仕様】

モデル名	M13VG2813IR		
イメージャ・サイズ	1/2.7"		
マウント	CS		
焦点距離	2.8~13mm		
絞り範囲	F/1.4~F/360		
画角(水平 x 垂直)	1/2.7型	Wide	125.1°x66.1°
		Tele	26.7°x 15.2°
	1/3型	Wide	101.1°x 73.9°
		Tele	22.3°x 16.8°
フォーカス範囲	フォーカス		0.3m~∞
	ズーム		手動ロック付き
操作方法	アイリス		手動ロック付き
			DCオートアイリス
対応波長	可視光域~近赤外域		
動作温度範囲	-20°C~+60°C		



See More in Smarter Ways

- ・完全な 180° / 360° ソリューション
- ・スマートテクノロジー:
 - ・先進のビデオ画像解析
 - ・人物検出
 - ・スマートストリームII
 - ・スマートIR II



VIVOTEK INC.

6F, No.192, Lien-Cheng Rd., Chung-Ho, New Taipei City, 235, Taiwan, R.O.C. | T: +886-2-82455282 | F: +886-2-82455532 | E: sales@vivotek.com | www.vivotek.com

SECTECH 21 - 22 November, 2017
Stockholm, Sweden

Booth No.:
03:51

AusRAIL PLUS 2017 | Brisbane
Conference & Exhibition 21-23 November

Booth No.:
205

Synology社、Surveillance Station 8.1を発表

【新機能】

●遠隔録画アーカイブ

支店でのストレージ・スペースが限られている問題を解決。ユーザは本社にアーカイブする録画時間とイベント・タイプをカスタマイズでき、本社のストレージを利用し、アーカイブ実行時間の設定や帯域幅制御によりアーカイブ・タスクがユーザのネットワーク利用に影響を与えない。

●POS^{※1}との統合

店舗は対応映像で取引を監視でき、直感的なインタフェイスで過去の録画を検索して取引に関するトラブルを速やかに解決する。ユーザは不正な取引のためにイベント通知をカスタマイズし、Action Ruleアプリケーションとやりとりできる。

●インタコム・カメラ^{※2}との統合

インタコム・カメラは豊富な機能を持つデバイスで、映像監視、呼び鈴、ドアロック操作、双方向音声など多彩な機能を提供。これらの機能に加え、Surveillance Station 内の過去の録画を検索できるため、ユーザはDS cam経由で双方向音声と1回ごとに手動アクセスができ、どこにいても訪問者に対応できる。



●ホーム・モード

ホームセキュリティとして、Surveillance Station 8.1 はユーザが在宅か外出中かに応じて2種類のセキュリティ設定が可能。ユーザは異なるセキュリティ・モードの切り替えを、手動やスケジュールまたはGeofenceで行える。別のセキュリティ設定に切り替える場合、異なる録画スケジュール、通知設定、ストリーム・プロファイル、起動するアクション・ルールをシステムで調整。

●HTML5 のサポート^{※3}

Surveillance Station Clientの利用に限定されていたことや、Internet Explorer とSafariでプラグインをインストールする必要がなくなり、Surveillance Station 8.1のHTML5サポートにより、

映像はChromelによる表示が可能。

●GPU アクセラレーション^{※4}

GPU アクセラレーションをWindowsバージョンのSurveillance Station Client でサポート。Surveillance Station 8.1にアップグレードしGPU オプションを有効にすると、グラフィックス・カードの追加購入なしに、CPU 使用率を大幅に下げつつ組み込みのグラフィックス・カードによる高性能を享受し、スムーズな映像表示を実現。

【入手方法】

Surveillance Station 8.1は、パッケージ・センターのDiskStation Managerから無料でダウンロードでき、Synology DiskStation、RackStation、DSM 6.0以降が動作しているNVRモデルに対応。

【適用機種】

https://www.synology.com/ja-jp/company/news/article/Surveillance_Station_81を参照

※1.各POSデバイスには2つのSurveillance Device ライセンスが必要。

※2.インタコム・カメラの設置方法は通常のカメラとほとんど同じで、各インタコムには1つのSurveillance Deviceライセンスが必要。

※3.現在のバージョンでは MJPEG と H.264 ビデオのみをサポートし、魚眼デワーピングやライブ・ビュー分析などの高度な画像機能はサポートしない。機能とサービスを全て利用するには、Surveillance Station ClientがInternet Explorer、Safari の利用を推奨。

※4.GPUアクセラレーションは H.264ストリームのライブ・ビューとプレビューだけでサポートし、魚眼デワーピングやライブ・ビュー分析などの高度な映像処理はサポートしない。GPUアクセラレーションをサポートしないストリーム・タイプは依然としてCPUのデコーディングを使用。

【問い合わせ先】

Synology社の本製品に関する日本の問い合わせ先は、下記の通り。

株式会社アスク

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-21 山脇ビル11階

TEL:03-5215-5650、FAX:03-5215-5651

<https://www.ask-corp.jp/>

エルモ社、QBiC CLOUDCC-2を発売

本製品は、QBiC CLOUDシリーズの簡便さはそのままに、カメラの基本性能を向上させた。

【特長】

■簡単な設置とWi-Fi接続

電源以外の配線は不要でカメラを必要な場所に設置するだけ。Wi-Fiは2.4GHzと5GHzのデュアル・バンド対応。

■720p HD高画質で30fps録画/暗視対応

最大720p HD映像を30fpsで動画を伝送。

最低照度0.1ルクスまでカラー映像で録画し、それ以下の照度では赤外線LED映像を録画。

■対角134度の広角レンズを採用

水平111度/対角134度の広角レンズを採用し、1台のカメラで広範囲を網羅。

■クラウド・サービス対応

映像は全てクラウド・サーバに保存。

スマートフォンやPC経由で映像をライブ・モニタリング、保存映像検索、ダウンロードが可能。

※映像保存にはクラウド・サービス利用料が別途必要。

【主な製品仕様】

有効画素数	1/2.8型2.0メガピクセル(1,945×1,097)
解像度	1280×720
最低照度	0.1ルクス
F値	F2.0
フレーム数	最大30fps
画角	水平111度/垂直58度/対角134度
デイ/ナイト機能	ナイトモード・赤外LED点灯、赤外カットフィルタ・オフ、白黒映像
カメラ角度調整	手動
Wi-Fi	IEEE802.11 a/b/g/n/ac dual band (2.4GHz+5GHz)
WDR対応	
マイク、スピーカ付属	
動作周囲温度	-10~40℃
外形	φ70×82 mm
重量	150g
電源	DC5V(USB microB)



DYNACOLOR JAPAN、エンコーダ2シリーズを発表

今回発表した製品は、様々なアナログ映像を録画・再生可能なSLHDシリーズNVRとアナログ映像信号をP信号にエンコードするLシリーズ・エンコーダ。



【主な特長】

- NTSC/PAL、960H、AHD1.0、AHD2.0、AHD3.0、CVI、TVIなど多種のアナログ映像に対応
- 入力したアナログ画像をH.264で圧縮しデュアル・ストリームに変換。
1stストリームとしてフルHD/720P,960HあるいはD1のいずれかを選択
2ndストリームとしてCIFを重畳
- アラーム入出力は、動体検知やビデオロス検知でトリガーし、イベント録画、外部リレー出力が可能。
- DynaGuard、DyanRemoteの2つのアプリケーションにより遠隔監視システム構築が可能
- 4CH/8CH/16CHモデルの選択が可能
SLHDシリーズNVRはL4HD,SL8HD,SL16HDの3モデル
Lシリーズ・エンコーダはL4, L8, L16と各3モデル
- 最大4台のHDD搭載が可能

日本防犯システム、PF-AHD809を発売

本製品はAHD対応2.2メガピクセル耐衝撃設計屋外IR PTZカメラ。

【主な特長】

- 新映像伝送方式であるAHD2.0に対応
- 高画質映像をそのままに最長で約300m遠方まで送信可能
- ハイスピード・ドーム型カメラ
- 高画質・精密な光学30倍ズーム
- DVR制御では制御線が不要



<http://www.js-sys.com/product/ahd/pf-ahd809.shtml>

【主な仕様】

レンズ	光学ズーム30x f=4.3~129mm
撮影範囲	水平:2.23~65.1度
イメージセンサ	1/2.8型ソニーSTARVIS CMOSセンサ(画素数:1945×1097)
最低照度	カラー:0.35Lux 白黒:0.013Lux 赤外線照射時:0Lux
解像度	AHD:1080p@25/30fps HD-TVI:1080p@25/30fps、720p@25/30/50/60fps
スキャン方式	プログレッシブスキャン
パンレンジ/スピード	360度/最大380度/秒
チルトレンジ/スピード	-10~90度/最大380度/秒
映像出力	AHD/HD-TVI:BNC コンポジット:BNC
アラーム	入力×4 出力×2(ターミナルブロック)
制御線	RS-485 ポーレート2,400~38,400bps
赤外線照射距離	最大400m
その他の機能	WDR、デノイト、3DNR、デジタルズーム(16x)、露出コントロール、ホワイトバランス、逆光補正、フリップ、シャッタースピード、赤外線照射、霧補正
外形寸法	約201.8(径)×313(高)mm
質量	約4,900g
使用温度範囲/湿度	-10~+50℃、~90% ※結露しないこと
電源/消費電流	DC24V / 2.6A、AC24V
IP等級	IP66

VIVOTEK社、映像管理ソフトウェアVAST2を提供開始

今回発表した「VAST 2」は、VASTの基盤となる強力なソフトウェア・エンジンをベースに、全く新しい直感的なユーザ・インタフェースを採用し、自動セットアップ、高度な検索、カスタムレイアウトの他、フェールオーバー保護、トランスポート、トランザクション・ソリューションのための追加のアドオン機能など、ユーザ中心の機能を強化している。

新しいVAST 2は効率的な映像管理用に設計されており、セキュリティ運用者は運用・保守のコストを削減することができる。



●VAST 2で強化した3つのユーザ向けの特長

1. 利便性

自動設定ウィザードを利用して監視システムのセットアップを簡易化した。ユーザは、ウィンドウの隅をドラッグするだけで画面レイアウトを調整でき、これは同社製フィッシュアイ画像補正にも対応している。また、エビデンス・ロック機能を追加することで、映像記録の保存時間をマニュアル操作で延長することができ、多数の調査事象の管理も簡単にした。これらの映像は、

カスタム・レイアウトで簡単にエクスポートでき、迅速なスナップショット機能を使用して、クリティカルな証拠を直ちに保存することもできる。

2. 効率的な検索

スマート検索とサムネイル検索の2種類の検索機能を備えた。どちらもセキュリティ・スタッフが疑わしいシーンから対象事象を迅速にフィルタリングできるように設計した。スマート検索を使用すると、ユーザは特定の関心領域を選択でき、システムは動きが検出された動画記録を表すサムネイル一覧を表示する。サムネイル検索に加えて、ユーザは時間軸に従ってサムネイルをブラウズすることができる。セキュリティ・スタッフは、対象のクリップをすばやく特定でき、調査対象を絞り込むことができる。

3. 豊富なアドオン

ライセンスによる高度な追加機能もサポート。これにより、システム停止、ネットワーク・エラー、またはその他の誤動作の発生時に、予備サイトに映像録画を転送し、録画を中断しないようにフェール・オーバー機能を備えている。VAST 2は個別市場からの強い要望を背景に、素早く特定機能をカスタマイズし統合を可能にする特徴を備えている。交通分野では、VAST 2はGPS受信機から車両のリアルタイムの位置を表示し、記録された経路で動画を再生することができる。また店舗/小売り分野では、VAST 2はライブ映像と録画映像の両方にトランザクションを表示し、ユーザが異なる条件を入力してトランザクションを検索することができる。

<http://www.vivotek.com/>

店舗プランニング社、韓国SUPREMA社製入退室管理システムを販売開始

両社は2017年8月1日にSUPREMA社と販売代理店契約を締結し、同月21日より入退室管理システムを販売開始した。

日本におけるアクセス・コントロールの市場は、今後、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催で多くの外国人観光客の訪日が見込まれることや、労働力不足による外国人労働者の増加に伴い、個人認証による入退室管理の需要はさらに増加すると予測されている。

また、現在問題となっている個人情報漏洩問題や勤怠管理の明確化にも運用できるため、店舗プランニング社は、同社が長年の実績を持つ監視カメラ・システムと、勤怠管理機能を有するSUPREMA社製入退室管理システムを連携する。これにより、相乗効果が高く幅広いセキュリティ・ソリューションの提案を推進する。

●SUPREMA社入退室管理システムの主な特長

1. 導入実績に裏づけされた信頼性

SUPREMA社は、アクセス・コントロール・システムを全世界133ヶ国に1,000社超の販売網に供給。また、同システムは、全世界市場の8割にあたる入退管理システムとの連携が可能。

2. 世界最高水準の性能を誇る指紋認証アルゴリズムの高度な技術力

国際大会である「The Fingerprint Verification Competition (FVC: 指紋認証検証競技大会)」ほか、指紋やセキュリティ製品の大会で何度も最高賞を獲得している高度な技術力を有する。

3. 世界最高レベルの高速顔認証技術開発力

1人あたり0.08秒という超高速顔認証技術を採用し、魅力的な新製品の次世代顔認証機器を開発し、豊富なラインアップをそろえている。

4. 独創的なIPネットワーク基盤による優れたコスト・パフォーマンス・システム

独創的なIPネットワーク基盤システムにより配線工事費を低減し、大規模システムでも従来システムより大幅コストダウンを実現。

5. 多彩なソリューションを提供できるWeb基盤統合セキュリティ・プラットフォーム

Web基盤統合セキュリティ管理ツールでTCP/IP、RS485、Wiegandなど多様なインタフェースを活用し、入退室管理を始め勤怠管理等の各種環境に適応したシステム構築が可能。

●販売目標

初年度500台、次年度2000台。

●希望小売価格(税抜き)

192,000～840,000円

●主要製品と仕様

FaceStation2 IP顔認識ターミナル



- 1.4GHzクアッドコアCPU
- 最大3,000件 マッチング/秒
- 4.0型タッチ・スクリーン式カラーLCD
- TCP/IP、RS485、Wi-Fi

BioStation L2 IP指紋認証ターミナル



- 1.2GHzクアッドコアCPU
- 1秒間に最大15万件の照合
- ライブ指紋検出
- カラーLCD(キーボード搭載)
- TCP/IP、RS485

BioEntry W2 屋外IP指紋認証デバイス



- 1.2GHzクアッドコアCPU
- 1秒間に最大15万件の照合
- 2周波:125kHz + 13.56MHz (あらゆるカード・タイプをサポート)
- ライブ指紋検出
- IP67/IK08保護
- TCP/IP、RS485、PoE

Xpass S2 IP RFIDデバイス



- 最大ユーザー数5万人、ログ数10万件
- IP65防塵・防水機能
- スリムなギャングボックススタイル
- TCP/IP、RS485

●SUPREMA Inc. 会社概要

創立	2000年5月4日
所在地	大韓民国京畿道城南市
従業員数	152名
売上高	42億円(2016年)
主要製品	入退室管理機器、指紋モジュール、モバイル用指紋アルゴリズム

●株式会社店舗プランニング 会社概要

設立	1996年11月25日
資本金	1,000万円
事業内容	1. 防犯カメラ、ハードディスク・レコーダ、万引防止システム、入退室管理システム等の卸販売 2. コスト・パフォーマンスに優れた海外セキュリティ機器の輸入および卸販売業務
URL	www.tenpo.co.jp

SUPREMA社常務取締役イ・スンヨプ氏と 店舗プランニング社長飛永泰男氏に聞く

産業ニュースに掲載の通り、店舗プランニング社は、韓国SUPREMA社とアクセス・コントロール製品の日本市場での販売代理契約を締結した。

本誌は、SUPREMA社の世界市場での事業展開の状況と、店舗プランニング社がアクセス・コントロール市場に本格参入した理由、そして両社がパートナー・シップを結んだ背景等について、SUPREMA社常務取締役イ・スンヨプ氏と店舗プランニング社長飛永泰男氏の両氏にインタビューする機会を得た。



【SUPREMA社への質問】

【質問】SUPREMA社製アクセス・コントロール製品には顔認証、指紋認証、RF-ID、暗証番号の各方式があるが、世界市場での販売比率は？

【回答】最近の当社の販売比率は、顔認証と指紋認証の生体認証が85%、RFIDが15%だ。世界市場全体でみると、RE-ID認証は安定して成長を継続しており、一方生体認証は急成長している。また、現在の生体認証の世界市場では指紋認証が大半だが、数年以内に顔認証が主流となることは確実なため、当社は顔認証を積極的に営業展開している。

【質問】SUPREMA社製アクセス・コントロール製品はどの業種での納入実績が多いか？

【回答】当社の製品は、金融機関やデータ・センタ、政府機関や製造業など高いセキュリティを求める市場で強みを発揮している。つまり、価格面ではなく高品質な性能面で高評価を得ている。そのため、BtoB市場では生体認証製品が、住居用などのBtoC市場ではRF-ID製品が主流となっている。

【質問】貴社の世界市場の売り上げは、EMEA(欧州、中近東、アフリカ)、NMSA(北中南米)、APAC(アジア、太平洋)の地域別でどのような割合か？

【回答】大まかにはEMEAで45%、NMSAで30%、APACで25%となっている。そのうち、APAC市場での成長を見込んでいる。とりわけ日本市場に注目している。そのため、今回店舗プランニング社とのパートナーシップを構築した。

【質問】アクセス・コントロールの日本市場に対する貴社の見解は？

【回答】EMEAとNMSA地域さらに中国では、販売会社とコンサルティング企業、システム構築者、設置施工者と細分化された産業構造だ。



店舗プランニング社長飛永泰男氏(左)とSUPREMA社常務取締役イ・スンヨプ氏

一方日本市場では、国内および海外メーカの現地法人を含め参入企業が多いこと、取引先に警備会社をはじめとする様々な企業形態があること、顧客との直接取引が存在すること、そして製品に求める品質が高いことなどがある。

このような日本市場で当社製品が主要対象先と想定しているのは、データセンタのように高いセキュリティを求めている分野で、そこで高いセキュリティを誇る当社製品を訴求していく考えだ。そのためにも、パートナー企業との緊密な連携が不可欠だと考えている。

【質問】日本市場でのRF-ID関連製品での事業展開は欧米ブランドでも厳しいが、どのように取り組むのか？

【回答】当社は、価格面で市場競争を展開するのではなく、まず当社の技術力と性能を前面に出した生体認証方式を優先し、次にRF-IDや当社独自開発のモバイル・クレデンシャルを加えたソリューションを提案している。

【質問】貴社製品が誇る技術とは？

【回答】まず、顔認証に関する当社製品であるフェイス・ステーションは、当社独自のアルゴリズムと光学技術を取り入れて開発しているため、写真や液晶画面からの偽造顔認証を防止することも可能だ。また、前述したモバイル・クレデンシャルを利用すると、BLEやNFCを搭載しているスマホをまるでRF-IDカードのように使うこともできる。

【質問】今回店舗プランニング社に期待する点は？

【回答】店舗プランニングには全国のBtoB市場での事業開拓を期待している。



【店舗プランニング社への質問】

【質問】今回、アクセス・コントロール製品の取り扱いを開始した背景は？

【回答】背景として理解している点は、日本のアクセス・コントロール市場では、個人認証による管理がまだ十分に普及していないため、今後ますます拡大すると見ている。次に2020年の東京五輪開催を含めて海外からの来訪者増加に取り組む政府の方針がある。さらに外国人労働者の雇用受け入れ問題もある。そして、勤怠管理の明確化を実現するシステムへの応用が可能なのがあるとみて決断した。



【質問】その中でもSUPREMA社製品を選択した理由は？

【回答】まず、SUPREMA社は既に世界133カ国で1,000社以上へのアクセス・コントロールの販売実績と、市場で高評価を得ている技術力を有していることだ。それを裏付ける一例として、世界各地で技術最高アワードを幾つも受賞していることがある。次に、IPネットワーク基盤に基づいた製品で、従来の大規模システムにおいても活用できることから、低コストで導入することができることだ。

【質問】貴社の代理店経路での販売になるのか？

【回答】販売経路としては、一つは既存の映像監視製品代理店があり、もう一つはアクセス・コントロール製品向けに新たな販売代理店網を構築する。これは、アクセス・コントロール市場は映像監視市場と異なるためだ。

【質問】今回の販売代理契約に含まれている製品は、SUPREMA社製アクセス・コントロールの全製品(顔認証、指紋認証、RF-ID認証、暗証番号)か？

【回答】全製品を扱う。ただし暗証番号単独の製品が存在しないため、主に顔認証製品との組み合わせたシステムを提供することになる。

【質問】SUPREMA社製アクセス・コントロール製品を販売する際、具体的にどのようなシステムで営業展開するのか？その場合のプラットフォームやソフトウェアは？

【回答】認証機器と勤怠管理との組み合わせによるシステムの販売を推進する。既に当社とSUPREMA社との共同開発で、本システム用ソフトウェアが完成している。本ソフトウェアについては海外市場で導入実績がある。

従って、アクセス・コントロール製品向の販売代理店経路では、認証機器と勤怠管理そして独自開発のソフトウェアによるシステムと生体認証製品の二つが主力製品となる。



ディープ・ラーニングが 推進する スマートカメラによる 先端での解析

映像内容の解析処理がバックエンド・サーバから先端機器へと移行している。この動きには、幾つもの課題があるが、処理能力の向上と技術革新に伴い、スマートカメラによるディープ・ラーニングが推進されている。

●エイフェストロム (フリーランサー) 著

先端機器での解析は新しい概念ではないが、これまでは技術面の制約があった。この状況が、処理能力の向上、IoT(モノのインターネット)の普及、ディープ・ラーニング・アルゴリズムと映像解析の融合により変わろうとしている。現在、先端機器での解析は応用面だけでなく、精度や効率性でも着実に成長している。バックエンド・サーバから解析処理を分離し、カメラに組み込むことで、先端機器での解析を利用し、高精度で効率的なデータのリアルタイム解析が可能になる。

リサーチ&マーケット社のレポートでは、先端機器での解析市場は年平均32.6%の成長率が見込まれ、2016年の19億ドルから2021年には80億ドルに拡大すると予測されている。同レポートでは、IoTの出現、コネクテッド・デバイスによるデータの急増、拡張性やコストの最適化による先端機器での解析の普及

が、この成長を牽引する要因として挙げられている。IoTとクラウド技術に関する行政の取り組みの増加も先端機器での解析の普及を促進すると予測される。

地域別に見ると、前述の予測期間中に最も高い年平均成長率が見込まれるのは、アジア太平洋地域だ。同レポートは、「データへのリアルタイム・アクセスを総合的にサポートし専門性を備えた高度な解析ソリューションと先端機器での解析の莫大な需要が、この成長の要因だ。企業は事業の状況を総合的に把握し、より迅速に意思決定を下せるようになる」と説明している。

先端機器での解析のスマートカメラへの採用を促進しているのは、先端機器での解析の新たな開発成果だ。ディープ・ラーニング・アルゴリズムの進歩と処理能力の向上で成長が促進されるだけでなく、より良い結果が生まれている。



ダファ・テクノロジー社
海外マーケティング部長、
ダニエル・チャウ氏



インテル社新技術グループ担当
副社長兼Movidiusグループ部長
レミ・エイ・オウアツァネ氏



クアルコム・テクノロジー社
製品管理担当部長
ダニール・ペトウケヴィッチ氏

IoTの接続性

IoTを構成する様々な要素の中でも、接続性が他の要素に暗い影を投げ掛けている。

インテル社新技術グループ担当副社長兼Movidiusグループ部長レミ・エイ・オウアツァネ氏は、「エンド・ノードが単純に生データを伝送するのではなく、ネットワークとインテリジェントに通信する能力を備えれば、IoTの理念の全ての果実が手に入る。そのとき初めて、先端機器での解析市場向けのIoTシステムを本当の意味で実現したと言えるのではないか」と言う。

エイ・オウアツァネ氏は、先端機器での解析に関して、遅延と帯域幅、耐障害性とプライバシーなどの理由からインテリジェンスを先端部に配置する必要があるアプリケーションが多いと説明し、「今後、ネットワークカメラ用のクラウド中心型のアプリケーションが数多く出現すると思われるが、当社は、コンピュータ・ビジョンやディープ・ラーニングのような高負荷な作業を先端部で集中的に処理するなど、インテリジェンスを全体に適切に分散したハイブリッドな取り組みも多く出現すると予測している」と語る。

ディープ・ラーニングの活用

映像解析全体が初期段階よりも著しく向上し、ゆっくりとしたペースではあるが、解析が行われる場所が先端機器へと移行を続けた。現在、解析は先端部に位置し、セキュリティ業界では、最新の開発成果がスマートカメラによる先端機器での解析に応用されている。

こうした開発成果の中で最も重要なのが、マシン・ラーニングの一分野であるディープ・ラーニングだ。セキュリティ用の先端機器での解析にディープ・ラーニング・アルゴリズムを応用することで、正確な結果が効率的に得られるようになる。IDC社リポートは、2019年にはあらゆる効果的なIoTの取り組みで、データ・レイク、データ・マート、コンテンツ・ストアで鍛えられ、個別プロセッサや統合プロセッサにより高速処理されるマシン・

ディープ・ラーニング・アルゴリズムを先端機器での解析に応用すると、不要なデータを適切に除外するよう機器に指示することができる。ビッグデータの世界では、この能力が時間とコスト、労力の節約に繋がる。

ラーニングがストリーミング解析と融合すると予測している。

業界各社もこの傾向を重視している。HIKVISIONデジタル・テクノロジー社製品マーケティング責任者セル・グオ氏は、「最新のインテリジェンス開発と言えば、ディープ・ラーニングだ。従来のインテリジェント・アルゴリズムは、特に精度の問題や誤認警報など依然として欠点が多い」と言う。

ダファ・テクノロジー社海外マーケティング部長ダニエル・チャウ氏は、「セキュリティ監視カメラの先端機器での解析は、従来のスマート・アルゴリズムからディープ・ラーニング・アルゴリズムに移行しようとしている。フロントエンドのカメラに内蔵のアルゴリズムは、最新の人工知能技術を利用して、人間、車両、物体をデータから抽出し、認知や事件の検知を行うことができる」と説明する。

インテル社新技術グループ担当副社長兼Movidiusグループ部長レミ・エイ・オウアツァネ氏も同意見で、「映像解析アルゴリズムの精度を大幅に高める手段として、ディープ・ニューラル・ネットワークを導入した。専用のVPU(Vision Processing Unit)を使用することで、この種のアルゴリズムに必要な演算処理を先端機器に移行できるようになったこと。当社の見解ではこの2つが最大の開発成果だ」と語る。

ディープ・ラーニング・アルゴリズムを先端機器での解析に応用すると、不要データを適切に除外するよう機器に指示することができる。ビッグデータの世界では、この能力が時間とコストと労力の節約に繋がる。

エッジとIoT

莫大な量のデータを生み出すIoTは、解析に多大な影響を及ぼしている。

大量の機器を接続することは、大量のデータを得るという点では素晴らしいことだが、莫大なデータ量の取り扱いは気が遠くなるほど困難な問題だ。豊富な処理能力が必要なだけでなく、時間もかかる。処理能力の向上はこの問題の解決に役立つが、先端部でデータを解析すれば、サーバの処理時間が不要になり、実際のアラームに注力することができる。

IDC社のレポートは、2019年にはIoTで生み出されるデータのうち、ネットワーク先端部や近辺で保存や処理、解析や対応データが40%以上を占めると予測している。この動向に対処するため、同レポートでは、IoTゲートウェイ戦略を持つITハードウェア・ベンダに注目すること、ネットワーク容量の拡大に投資し、変動の多い、想定外のデータトラフィックを処理できるようにすること、企業向けソフトウェア・ベンダは先端部の要件に対応した解析エンジンを含むロードマップを用意することを提唱している

処理能力の問題への解答

先端機器での解析の大きな問題の一つが処理能力だ。チャウ氏によると、先端機器での解析のアプリケーションがうまく機能するかどうかは、低電力で高性能の演算プラットフォームをカメラに統合できるかで決まる。

エイ・オウアツァネ氏も、新世代のディープ・ニューラル・ネットワーク・ベースのアルゴリズムを導入するには、限られた電力の範囲内で高度な処理能力を実現できることが重要だと強調する。

「ディープ・ニューラル・ネットワークは、従来の取り組みよりも著しく高精度だが、その利点と引き換えに電力消費量が増大化する。ディープ・ニューラル・ネットワークは90～99%の精度を達成できる可能性があるが、その分電力消費量が多い」とエイ・オウアツァネ氏は言う。

インテル社Movidiusグループは、性能向上のため、このクラスアルゴリズムを可能な限り最も効率よく実行できるVPUを開発した。エイ・オウアツァネ氏は、「Myriad 2 VPUで実行される最適化されたテンソル・ライブラリにより、ディープ・ニューラル・ネットワークや他のビジョン・アルゴリズムの処理が可能な、比類のないレベルの演算能力を1W以下の電力費用で実現することができる」と語る。

カルコム・テクノロジー社製品管理担当部長ダニエル・ペトウケヴィッチ氏も、先端機器での解析の最大の課題は、強力な正確な解析を実行するのに十分な処理能力を確保することだと言う。

カルコム社はハードウェアと機能を強化し、カメラによるディープ・ラーニングと映像解析が可能な、総合的なカメラ・プラットフォームを開発した。このプラットフォームは、高度な画像処理とディープ・ラーニング処理用GPUとDSPを搭載し、40%以上のCPU DMIP (遅延モード画像処理) を実現するカルコム社Snapdragon 625をベースとしており、8つのA53 CPUコアが最大2.2 GHzの速度で、GPUと並行して動作する。「他社製のカメラSoCは、CPUコアが1つか2つなので、強力な解析に使用できる処理能力が限られている」とペトウケヴィッチ氏は言う。

同氏は、処理能力の向上に伴い先端機器での解析の推進が続き、最終的には「モデルの改良による精度向上と強力な解析、フレーム・レート向上による高速移動物体の追跡、遠方の物体も捉えることができる高解像度」が実現されると言う。

先端機器での解析のメリット

先端機器での解析には様々なメリットがある。リアルタイム解析から高精度や高効率性まで、先端機器での解析で得られる



カメラに解析機能が搭載されていれば、緊急事態の発生時にバックエンド・サーバに頼らずに、解析とアラームの生成を瞬時に行うことができる。
提供：インテル社Movidiusグループ

ものは多い。

チャウ氏は先端機器での解析の主なメリットについて、「1台のカメラに搭載されるスマートな認識能力が増強され、他のセンサ技術と組み合わせることで、人間の認識能力を上回ることができる。さらに、カメラのクラスタリングで、データ・コリジョン(データ不一致)の検出やクラウド・コンピューティング処理が可能になる。先端機器での解析は主に監視業務を効率化し、ユーザが介入する必要性を低減する。人間の管理下でスマートな監視も行える」と語る。

チャウ氏の説明によれば、先端機器での解析は分散型の構造化映像データ処理を実現する。カメラの録画データから個々の瞬間を取り出し、リアルタイムに演算と解析を行い、データを構造化された自然言語による記述として処理し、バックエンド・ストレージや監視センタに送信することができる。

「緊急事態の発生時に、バックエンド・サーバに頼らずに、認知と解析、アラームの生成を瞬時に行うことができる。何万台ものリアルタイム・スマート監視カメラを使用するセーフシティなどの案件で、非常に大規模な映像解析処理を行うこともできる」とチャウ氏は言う。


バックエンド・サーバでの処理が減少すれば、帯域幅の使用量も減少する。グオ氏は「例えば、ナンバープレート認識では、フロントエンドのカメラを使用して車両の画像を取得すると、カメラ内蔵の画像認識アルゴリズムも動作し、定義済みのルールに一致したデータだけを送信する。膨大な量の生データをすべ

てバックエンド・サーバに送信して処理する場合、必要なインターネット帯域幅は莫大なものになる。解析に使用するバックエンド・サーバが故障するリスクは、先端機器での解析と比較すると確かに少ないが、万一故障すると重大な悪影響が生じる。先端機器での解析では、このようなリスクが様々な場所に分散されるだけでなく、伝送用帯域幅の消費量を大幅に節約することができる」と例を挙げて説明する。

エイ・オウアツァネ氏は、生データの伝送をメタデータのみ伝送するようにするか、より現実的に一時的または地域固有のエンコードに切り替えることで帯域幅を節約できると指摘する。

「ネットワーク自体も障害点を分散し、より強固になる。機器にインテリジェンスを搭載することで、PTZ(パン/チルト/ズーム)機能を利用して今までにない自律的なアプリケーションが数多く出現するだろう。多数のカメラで構成されるネットワークを使用して、様々な場所に移動し分散しながら発生するイベントを追跡することができる」と付け加える。

ゆっくりと着実に

セキュリティの世界での映像解析から我々が学んだことは、成長や普及がウサギではなく亀の歩みで進むという事実だ。それでも解析は成長を続け、映像監視の不可欠な一部になった。技術が少しずつ進歩し、必然的に精度や接続性が向上すれば、ディープ・ラーニングに支えられた先端機器での解析がさらに向上を続け、長年の期待に応える日も近いかもしれない。 

マルチサイト監視を もっと簡単に 正しく構築する

映像監視モニタリングとマルチサイトで新たな業務への挑戦が可能になる。監視担当者は、基幹機能の正確な構成と新技術の利用で、マルチサイト・モニタリングをより簡単に、より効果的に効率化することができる。

●エイフェストロム(フリーライター)

マルチサイト環境のサイズとスケールが大幅に変わるかもしれない。複数の市街区域にまたがる数台のカメラから都市や州、国や海洋にまたがる数千のカメラまでを、マルチサイトで繋ぐ映像監視データは難しい。昨今の新技術と増大化した接続性は、マルチサイト・セキュリティ管理者が担う増加する一方のセキュリティを支援するだけでなく、有効性と効率の増大化にも役立っている。

遠隔監視と画像解析を映像監視システムの重要な機能として組み入れたり、フレキシブルでスケーラブルなソリューションを採用したりすることで、マルチサイト環境が従来以上に簡単になった。

正確なシステム構築への挑戦

ジェネテック社製品マーケティング責任者ローレン・ヴィレヌーヴ氏は、優れたマルチサイト・システムとは、ユーザに映像を現地でも管制室でも録画し、組織を横断して共有することができることだと説明する。さらに同氏は「個別あるいは独立したシステムに接続するのではなく、同一システムにある数百から数千台までのカメラと接続できるよう構築するべきだ」と言う。

管理者は、真に統合されたセキュリティ・プラットフォームを使うことで、カメラやモニタ・アラーム、トラック・アクセス・コントロール、さらに自動車の動きを同じユーザ・インタフェースか

らの制御が可能だ。「いつでもどこからでも映像監視システムにアクセスし、状況の操作した画像を得られるようにする。これが、プライバシーを侵害することなく公的機関と連携し分担する方策だ」とヴィレヌーヴ氏は言う。

マルチサイト環境向けの映像監視システムの正確な構築は、困難だがやりがいがある。しかし、ユーザは、マルチサイト・システム内の全サイトが同一ではないという事実、例えば帯域幅の可用性に変化が発生することを考慮しなければならない。

ヴィレヌーヴ氏はまた、「ネットワーク化されたシステムが常に拡大していることも重要だ。これは、新しいネットワーク・ノードを追加するか、その能力や冗長性を増大させることによるのかもしれない。しかし、拡張には困難が伴う。組織の拡張はしばしばセキュリティへの投資に勝る。その結果、マルチサイト運用をサポートすることに立ち行かなくなる」と話す。

タイコ・セキュリティ・プロダクツ社アメリカン・ダイナミクス上級製品責任者ジャミ・デソーサ氏は、「ユーザは、最大構成すなわちサイト数、全カメラ台数、最大帯域幅の要件などを製造元が試行していることを確認する必要がある」と指摘する。

より優れた管理用の重要な機

しかし、新たな挑戦はシステム機能の正しい設定に他ならない。あらゆる設定が異なるが、良い映像監視システムは、これらの



タイコ・セキュリティ・プロダクツ社
上級製品責任者
ジャミィ・デソーサ氏



マイルストーン・システムズ社
CTOビヨルン・アイレットセン氏



ハネウェル・セキュリティ&ファイヤ
社EMEA地区販路責任者
ジェイムズ・サマヴィル・スミス氏



ジェネテック社
製品マーケティング責任者
ローレン・ヴィレヌーヴ氏

違いに順応することができなければならない。ここで言う順応性とは柔軟性を指し、これはマルチサイト環境では根幹となる。

「当社では、マルチサイト・モニタリング用映像監視システムは、全てのサイトでのあらゆる機器を遠隔管理ができる柔軟性を有し、集約化された管理ソフトウェア・プラットフォームを持つべきと考えている」とHIKVISIONデジタル・テクノロジー社製品マーケティング責任者クラウディ・ツ氏は話し、「それは、機器接続すなわちシステム・スケーラビリティ用に複数の認証を用意し、監視作業能率改善用にスマートなイベント検出とスマートなイベント検索を提供するべきだ」と付け加える。

サーヴェオン・テクノロジー社製品責任者キャスパー・ウ氏は、集中管理や中央モニタリング、双方向映像ウォールや複数画面表示、アラーム管理や集中化したアカウント管理、数千個のカメラと複数のクライアントのスケーラビリティなどの重要機能がマルチサイト・ソリューションには必要だと言う。

VMSに関しては、マイルストーン・システムズ社CTOビヨルン・アイレットセン氏が、「VMSは、違うネットワーク形態、速度、およびセキュリティ・レベルに順応することができるはずだ。これはカメラ接続タイプ、管理の要求内容、およびストレージ形態にもあてはまる」と説明し、「マルチサイト環境で使用するVMSは、ネットワーク透過性と容易な適応可能性、優れた方法でこれらの要求を処理できる必要がある。そして当社は、真のオープンなプラットフォームのVMSだけが、これらの要求を満たすことが可能だと確信している」と続けて言う。

ハネウェル・セキュリティ&ファイヤ社EMEA地区販路マーケティング責任者ジェイムズ・サマヴィル-

スマートで、安全で、 安全なストレージ

どこにどのように映像監視データを格納するかについては、幾つかのオプションがある。適切なストレージの選択方法は各用途が求める内容に依存する。

マルチサイト環境は数千のカメラ・オンサイトを持つことができ、これにより莫大な量の映像データを伝送する。データの多くがクラウドに移動している間、適切なストレージ・ソリューションはデータ・セキュリティを保全する上で重要となる。

シーゲイト・テクノロジー社セールス・エンジニア チュナン・チュ氏は、「映像監視環境が標準HDD(ハード・ディスク・ドライブより数段負荷のかかる仕事量をサポートしている」と言う。具体的には、シーゲイト社は、監視アプリケーション用に最適化したスマートで安全なストレージ・ソリューションを提供することを保証している。そして同氏は「それは、監視ではカメラとレコーダとストレージの統合よりも、ビジネスの連続性だ」と続ける。

「ユーザは、現在そして将来の要求に適う最良のストレージ・ソリューション方法を求める。つまり安全なビジネス連続性が究極だ。言い換えれば、非常に使いやすいストレージ・システムは、便利さと使いやすさを犠牲にせず、安全で入手可能なストレージ・システムだ。ユーザにとって最良のストレージ・システムは、ユーザの求める監視条件を満たすことができることだ」。

ジェネテック社製品マーケティング責任者ローレン・ヴィレヌーヴ氏は、マルチサイトのセキュリティ環境では、短期間での接続性と長期的な「深いストレージ」を備え、迅速でアクセス可能なストレージが必要だと指摘する。「セキュリティ専門家は、フルタイムのIT専門家によるオンプレミスのストレージ・システムか、クラウドに古い映像内容を5年以上安全に保管できる短期間のオンプレミスのストレージによるハイブリッド・クラウド・モデルを選択することができる」。

さらに、同氏は、複数企業が優れた柔軟性と可動性および遠隔地にあるオンプレミスのストレージを、どのようにクラウド・サービスとストレージ・モデルに移動するかを説明した。そして、適切なストレージの方法を選ぶことはアプリケーション、必要度合い、および予算によって変わると付け加えた。



サーヴェオン・テクノロジー社
製品責任者カスパー・ウ氏



HIKVISIONデジタル・テクノロジー社
製品マーケティング責任者
クラウディ・ツ氏

「ユーザは、クラウド技術を利用することで録画管理用の効率的なプラットフォームを持つことができるだろう。

さらに、これをVSaaSと結合することで、セキュリティ・スタッフは離れた場所から迅速に映像を調査し比較することができる。」

スミス氏は、重大なセキュリティ・アプリケーションでは、自動的なフェイル・オーバーを基幹項目とすべきだと言う。

「中央管制室が何らかの理由でダウンした場合で誰かがセキュリティ・システムに侵入しようとしても、自動的なフェイルオーバーで瞬時に運用をバックアップ部屋に切り換える。これにより、いつでもフルにセキュリティ状況を維持することができるからだ」と説明する。

遠隔監視

IHS社報告書によると、世界の遠隔監視市場は2015年に347億米ドルに達している。この市場成長は接続システムとサービスが支えている。この市場の大半は住居向けサービスだが、最新技術の増大によりビジネス市場から利益を得ていることに同社は注目している。同社はまた、通信帯域基盤の整備と映像解析機能の増加、設備費用の削減などにより、映像監視市場では大きな商業部門が重要な成長分野となっていると言う。

サマヴィル・スミス氏は、遠隔監視は効果的で効率的なマルチサイト監視管理のための本質的な機能であり、セキュリティ・スタッフがどこにいても遠隔監視で全ての画面にアクセスできることが重要だと説明する。

「例えば、セキュリティ・スタッフが敷地内の1ヶ所のイベントに対応しているならば、別の場所で発報が始動している場合、彼らは当該場所の映像にアクセスすることができる。場合によっては、セキュリティ・スタッフは、誰かが建物内部から接近するライブ映像を、モバイル機器で見ることができる。彼らは遠隔監視を使用することで、サイト内全域での重要な警告に常に気付く。」

適正な帯域幅の必要

よりスマートでより高解像度映像監視の成果の一つに適正な帯域幅があり、特にマルチサイト監視環境においては顕著だ。デソーサ氏によると、マルチサイト環境を処理するシステムは、サイト基盤が十分な入手可能な帯域幅に順応していなければならない。

「帯域幅能力はサイト間で一貫性がないかもしれないので、システムは各位置のユニークな面に依存して、すぐに帯域幅を割り当てることができなければならない」と同氏は言い、「サイトにより異なる帯域幅要件や制限があるかもしれないので、VMSは高品質な映像環境を確保するため、即座に各サイトの要件に反応することができることが重要だ」と続ける。

さらに同氏は「これは、遠隔あるいは定められたネットワーク接続経由で伝送する際に効果的に映像あるいはそのままの映像を管理する能力を明示できることだ」と付け加える。

画像解析の重要性

サマヴィル・スミス氏によると、映像解析の重要性はマルチサイト環境用の良質な映像監視システムを設計する際に強調され

映像システムでのサイバー攻撃対策

シスコ社発行の「ビジュアル・ネットワーキング・インデックス」では、2020年までにIP交通映像が82%を占めると予測している。

さらに、同時期に263億個超の機器がインターネット接続となるとも予測している。増大化する機器のインターネット接続状態で、より脆弱なシステムはサイバー攻撃の恰好のターゲットだ。

マイルストーン・システムズ社CTOビヨルン・アイレットセン氏によると、マルチサイト・ソリューションはサイバー攻撃に対して脆弱であり、確実に保護しなければならない。

ジェネテック社製品マーケティング責任者ローレン・ヴィレヌーヴ氏は「サイバー脅威は遍在しており、企業ではIPネットワークとその資産を保護する必要性が高まっている」と繰り返し話す。

そして「ネットワーク自体を保護することは不可欠で、映像監視システムも保護し、悪意のある行為者が機密映像や機密情報にアクセスするのを防ぐことができないとなければならない。これは頑強なサイバー・セキュリティが現段階で大企業にとっての重要な要件だ。そして、認証や暗号化、認可などの様々な技術をもって達することができる」と言う。



遠隔監視は、あらゆるタイプのマルチサイト監視環境での重要な機能である。

ることではない。「映像解析は、画角内の位置や人数のようにユーザの設定に基づいた異常行動をエンドユーザに通報する機能だ。これは、画面で監視して重要イベントを見落とす危険さを回避するだけでなくサイト上で発生するため、セキュリティ・スタッフの特定イベントへの反応をより容易にする」。

デソーサ氏は、優秀なシステムが豊かな解析ライブラリを持つべきだと説明する。「具体的には、解析は映像チャンネルごとにライセンスを供与するべきで、それにより必要に応じて他のカメラに移動することができ、メタデータを使って映像を検索する能力を持つ。これで早い高速探索結果を提供することができるはずだ」。

「映像解析の特に優れた利点は、セキュリティ部門が最優先で犯罪発生を防止することができるかだ」とサマヴィル-スミス氏は言う。「例えば都市にある大学キャンパスで説明する。ある集団が長期間建物の外でブラブラしていたら、映像解析技術は、これを潜在的なリスクとしてセキュリティ部門に通告することができる。必要ならば、セキュリティ・スタッフは、これに対して次の行動を取ることができる」。

クラウド・システムでのマルチサイト監視

クラウドの採用が急速に増加している。事実、シスコ社のクラウドに関する世界のレポートでは、2020年までに全データ・センタでの運用の92%がクラウドになると予測している。デソーサ氏によると、クラウド・サービスは疑いなくマルチサイト環境で最大の動向の1つだ。

「クラウドを利用することは、遠隔サイトで提供し操作を可能にして、基本的なインターネット接続で暗号化された通信を提供することとなる。その一方で、ネットワーク上での映像伝送

用にH.264+とH.265など優れた圧縮方式の使用を加速させる。管理プラットフォームと録画プラットフォーム双方での仮想化は、コスト削減用に既存のコンピューティング基盤を利用することができる」。

ヴィレヌーヴ氏は、クラウドがどれほどマルチサイト操作での重要な役割かを強調する。

「クラウドは、ユーザが全てのサイト経由で監視と報告およびアラーム管理業務を集中化することを可能にする。そして、システム管理に費やすオンサイト・ハードウェアと時間を削減する。さらに、アップデート・サービスの自動化は、映像管理システムのメンテナンスを非常に軽減化する。しかも、誰もが最新機能にアクセスすることができることと、使用機器のアップデートが完全に安全であることを保証する」。

そして、サマヴィル-スミス氏は、クラウドでのVSaaS (Video-Surveillance-as-a-Service: サービスとしての映像監視) システムが、どのようにしてセキュリティ部門がサイト範囲で解析を比較することができたかを説明した。その重要機能はシングル・サインオン(Single Sign-On: SSO)とマスタのダッシュボードだ。

「セキュリティ・スタッフは、別サイトからヒート・マッピングを比較でき、誰かが短期間に幾つのサイトを訪問したかを発見することができる。そして、複数拠点を經由して解析を比較する能力は、チームが即座に潜在的な問題をピンポイントで狙うことができる」。

さらにもう一つのクラウドの利点は映像証拠をオフサイトで保存できることだ。「これは、侵入者が退出するか履歴を消すためにサイト上の映像レコーダを破壊しても、警察でもセキュリティ・スタッフでも映像証拠見ることができることだ」。

これについて、サマヴィル-スミス氏は「これは、レコーダのどこに記録しているかを見つけやすくする上で特に有益だ」と付け加える。

マルチサイト管理の継続した改良

散見する幾つもの記録断片で、複数サイトの映像監視の全ての面を確認することは疑いのない困難な作業だ。それでも、IoT(モノのインターネット)のクラウドとインターネットなどの高度な新技術は、より効率的で効果的なマルチサイト映像管理と監視の未来を必ず創造する。

現段階では、マルチサイト・システムが柔軟かつスケーラブルに一定の重要な機能を有していることを保証しているので、セキュリティ・スタッフは、使いやすいソリューションを築くことができるはずだ。





スマート技術を利用した職場の変革

世界各地で不動産価格が高騰し、ビジネス競争が激化している。コストを節約する一方で、社員の生産性をいかに保つかが企業の喫緊の課題で、自動化された快適な仕事場を実現するスマートなハイテク・オフィスの役割がますます重要になってきた。最新のスマートオフィス・ソリューションは、企業における省エネルギーや最先端の会議室また来客管理の効率化に貢献する。

●ウィリアム・バオ(a&sインタナショナル誌記者)

オフィスの運営経費が上昇を続けている。最近発表されたシーメンス社の文書によると、ロンドンではオフィス必要経費が従業員1人あたり最大年間3万米ドルに達している。さらに悪いことに、同書によると、従業員は与えられた空間が狭いと感じている。「企業は、法外な経費への対応策として、従業員1人あたりのスペースを削減する方向に動いており、オープン形式のオフィスが導入されている。従来のオフィスの1人あたりの平均面積は46.5平方メートルだが、オープン形式では11.5平方メートルになる」と同書は説明している。

このような傾向では、コスト削減と快適な職場をいかに両立させるかが企業にとり重要な課題で、多くの企業が注目しているのが、自動化されたインテリジェントなオフィス環境を実現するスマートオフィス・ソリューションだ。例えば、ゴミ箱にセンサを取り付け、バックエンド・システムと接続すると、ゴミ箱がほぼ一杯になった時点でアラームを送信し対処を可能にする。同様に、PCやデスクまた椅子に取り付けたセンサにより、オフィス内の使用中の区画や、会議室の使用状況などが一目でわか



Teamgo社CEO
スティーヴ・パレット氏



HDL社国際マーケティング部長
ジャック・ヘ氏

るようになる。このような自動化の副産物として、効率性や生産性が向上する。

モードグリーン社CEOビル・ラリィ氏は「スマートオフィスは、仕事の進め方に大きく影響する可能性がある。機能性に優れた使いやすい会議用コンピュータ・システムやコラボレーション・システムがあれば、従業員はPCの前にいながら、いらだちを感じることなく、高い生産性を発揮することができる。一般に、



ABIリサーチ社主席アナリスト、
リャン・マーチン氏

省エネルギー

スマートオフィス・ソリューションの利点が最も顕著に表れるのが、省エネルギーの分野だ。現在職場にいる社員の効率を高める自動化により省エネが達成される。

HDL社国際マーケティング部長ジャック・ヘ氏は「退室の際、照明やエアコンを消し忘れたり、ドアを閉め忘れたりすることがよくある。スマートシステムを採用すれば、そのような事に気をつかう必要がなくなる。人間に代わってシステムが全て処理してくれるし、設定に基づいて時間帯ごとに装置の状態を確認することができる」と言う。

アダムコ・セキュリティ・グループ社グループ営業&マーケティング担当部長パトリック・リム氏は、「利用者の身元と時間、人数と活動の性質など様々な状況に応じて、エアコンや照明などの設備の運用方法を利用者側で決定することができる。コネクテッド・デバイスの出現により、こうした要因への対応が以前に比べてはるかに簡単に行えるようになった」と語る。

一般に冷暖房空調設備や照明の自動化には、オフィスの現状を「感知」するセンサが使われている。ABB社重要顧客担当責任者ジョン・タン氏は「当社は、照度センサ内蔵の存在検知器からオフィス空間を自動管理し、快適性を損なわずに最高のエネルギー効率を達成する屋外用気象センサまで、各種のスマート・センサ技術を幅広く提供している。これらのセンサにより照明や冷暖房空調設備、自動ブラインドや窓、建物の正面部分などの設定を環境の変化に応じて自動調節することができる」と語る。

ABIリサーチ社主席アナリストのリャン・マーチン氏は、「建物に差

し込む光の量は、1日の内でも時間帯によって刻々と変化する。窓に近い場所ほど照明の照度を下げ、時間帯に応じて適切に調節するソリューションが、既に出現している」と言う。

さらに一歩進んで、従業員が身に着けるウェアラブル機器とセンサの交信を利用して、必要な調整を行うこともできる。「大企業で、職場の健康促進プログラムの一環として、従業員がウェアラブル機器を装着しているケースを考えてみる。これらの機器を通じて温度をモニタリングし、得られた情報から個人の置かれた状況を推測することができる。摂氏24度で暑いと感じる人もいれば、逆に寒いと感じる人もいる。1日のある時間帯に誰がオフィス内にいるかを建物が自動的に認識するか事前に知っていれば、低温を好む人が在室していないなどの事実に応じて、予め適切な調整を行うことができる。このような自動化は、運営費に大きな成果をもたらす可能性がある」とマーチン氏は語る。



モードグリーン社
CEOビル・ライ氏

技術費用よりも、スタッフがオフィスで過ごす時間の方がはるかに高い価値がある。社員の効率性を高めれば、人材への投資から最大の利益を引き出し、生産性を最適化することができる」と語る。

投資を正当化する節約効果

ここで紹介した様々なスマートオフィス・ソリューションは、多額の初期費用がかかる場合がある。しかし、こうした初期投資は、長期的なコスト節約効果により正当化される。アデムコ・セキュリティ・グループ社グループ営業&マーケティング担当部長パトリック・リム氏は、「もちろん、自動化と情報化のレベルが高いほどコストが高くなる傾向があるが、データに基づく施設へのアクセスの許可や、予約に基づく光熱費の振り分けなど、ごく基本的なソリューションでも、既存のオフィスシステムと比較して相当な節約効果があり、利便性も高い」と言う。

ABB社重要顧客担当責任者ジョン・タン氏は「既存のシステム



ICDセキュリティ・ソリューションズ社
マーケティング&コミュニケーション
責任者クロエ・ライバ氏



アデムコ・セキュリティ・グループ社
グループ営業&マーケティング担
当部長パトリック・リム氏

スマート会議

オフィス生活では、会議を避けて通るわけにはいかない。ただでさえ面倒だと思われる会議だが、映像投影機の故障や装置とコードの接続不良などのトラブルが発生すると、激しい苛立ちが生じ不満がさらに募る。企業は、こうした理由からもスマートオフィス・ソリューションに注目し、会議機能の強化を図っている。

統合型会議室ソリューションの設計で、使いやすさが決定的に重要なことは言うまでもない。モードグリーン社CEOビル・ライ氏は「スタッフの効率性を高めれば、人材への投資から最大の利益を引き出し、生産性を最適化することができる。会議と音声そして映像機能を合体したシステムを設計する際、

鍵になるのが、従業員と会議に参加する来訪者の利便性だ。利便性がなければ会議は円滑に進行せず、必要な議題を確実に協議することはできない」と言う。



インフォーカス社
製品マーケティング担当部長
グレン・ジェイスタッド氏

会議室のあらゆる設備や装置を管理することができるワンボタン式制御を提供する企業が増えている。HDL社国際マーケティング部長ジャック・ヘ氏は「装置ごとにスイッチを使い分け

る操作は誰でも面倒だ。PC接続や他の装置用に何本ものケーブルがあるのも参加者に嫌われる。当社は、会議の形態に応じて選択できる3~4種類のシーンを設定した。例えば、公式会議ではグレードの高い照明効果が必要なので、それに合わせた設定を用意している。非公式会議ではRGB照明効果も追加している。スマート技術を知っているかどうかに関わらず、どんな人でもボタンを1つ押すだけで設定を選べるのが最も重要だ。それだけで用が足りる。壁面パネルのボタンを押すか、携帯電話のアプリを使用するだけで、自動的に会議シーンが設定される」と語る。

ABB社重要顧客担当責任者ジョン・タン氏は「当社のシステムでは、物理的なプッシュ型ボタン・スイッチ、タッチ式スクリーン・パネル、モバイル機器を使用して、プレゼンテーション・モードなど、プリセットの設定モードを作成し、操作することができる。このようなプリセットの設定モードを利用すれば、ボタンを押すだけで、照明を落とし、映写用スクリーンを下げる操作を自動的に行うことができ、時間の節約になる。音声システムを統合して、タッチ式スクリーン・パネルやモバイル機器から操作することもできる」と言う。

コラボレーションが鍵

複数拠点を結んだ会議が増加しており、会議の参加者によるコンテンツの共有がより重要になっている。インフォーカス社製品マーケティング担当部長グレン・ジェイスタッド氏は「2000年代に成人を迎えた世代が職場に加わり、その意向が会議用空間や技術に影響を及ぼしている。簡単な打ち合わせ用のスペースがある暖かみのあるオフィスと、同僚や上司との連携手段が求められる場合が多い。普段使っている機器を仕事で使いたいという要望もある。こうした背景から、既存の会議電話が徐々に廃止され、ビデオ会議機能を備えたBYOD (Bring your own device: 従業員が個人の携帯機器を使用して、企業のネットワークにアクセスできること)にも容易に対応できる協業に適したシステムの採用が進んでいる」と言う。

この傾向に即したインフォーカス社ソリューションが、ビデオ会議機能を搭載したインタラクティブ・ホワイトボードだ。「会議室の外部と共有できない会議/音声システムやプロジェクション・システムを設置する必要はない。ビデオ会議機能と共有機能を組み合わせたデジタル・ホワイトボードを1台設置するだけで、会議室だけの会議にも、外部と共有する会議にも対応できる。このタイプの装置は、省スペースだけでなく、設置や保守費用の節約に繋がり、1つの結果を得るために共通性のない複数の技術を組み合わせることから生じる苛立ちが解消される」とジェイスタッド氏は説明する。

注目すべき、興味深いもう1つの分野が、センサやロボットに接続することができる会議室用の備品だ。ABIリサーチ社主席アナリストのラン・マーチン氏は「会議室では、椅子が元通りに片付けられない場合が多い。片付けを行う人員を雇うか、散らかった会議室に顧客や上司また従業員を迎え入れざるを得ない。どちらも望ましいことではないため、しかるべき場所に自動的に収まるオフィスチェアがあれば、注目に値するシナリオになるだろう」と言う。

会議室ソリューションを検討する際、エンドユーザは、固有の要求や目標について考慮する必要がある。「会議用スペースは、ユーザの要求に応じてカスタマイズし、ユーザにとり最も重要な機能を提供するだけでなく、必要に応じて柔軟性を発揮する。ビデオ会議システム自体を重視する企業もあれば、省エネをさらに追及したい企業や、音質にこだわる企業もある。機能の向上や関連するその他のメリットといった最終成果は別として、どのシステムにも当てはまるテンプレートは存在しない」とラリ氏は言う。

“ 複数の拠点を結んだ会議が増えており、会議の参加者によるコンテンツの共有がより重要になっている。 ”



STOPware社
営業&マーケティング担当
副社長デビッド・ベンドレトン氏



セキュリティ・アイデンティフィケーション・システムズ・コーポレーション
社マーケティング責任者
ヴァージニア・サヴィエット氏



ABB社
重要顧客担当責任者
ジョン・タン氏

と比較して導入費用が高いと思われるかもしれないが、毎月の経費を大幅に節減することができる。導入事例によると、当社のKNXシステムなどのスマートシステムを導入すると、エネルギー使用量を約70%削減できることが判明している。このような事実も、企業がスマートオフィスに注目する要因の1つだ」と言う。

最新のオフィス・ソリューションは、従業員が効率よく無駄なく業務を行い、会議を開き、訪問者を迎えらるようにならされている。その前提には、競争が激化するビジネス環境で、社員の全体的な生産性を向上させるという大きな目標がある。不動産価格の高騰と、オフィスの運営費用の増大が続くため、スマートオフィス・ソリューションによる自動化は、今後さらに普及していくことが予測される。



来客管理

オフィスのもう一つの重要な要素が、商談や挨拶に訪れる来客の受け入れだ。そこでは、来客管理システムが重要な役割を果たす。最新の来客監視システム製品は、オフィスの安全だけでなく、スマート化に貢献する様々な機能を搭載している。

来客管理システムの主な機能は、より効率的にオフィス施設を守ることだ。ICD セキュリティ・ソリューションズ社マーケティング&コミュニケーション責任者クロエ・ライバ氏は、「時間がかかり、非効率的で、抜け穴や不正確な要素のある恐れのある従来の工程に代わり、スマートでデジタル化されたソリューションが現在の来客管理システムだ。人手に頼り、紙に記入する訪問者記録の代わりに、スマートな来客管理システムを使用してデータを保存、追跡すれば、訪問者に関する情報や統計を簡単に検索し、分析することができる。人員を配置して入館許可を行う必要性が低下し、コスト削減に繋がる。電子的ID認証や顔認識技術を利用して、訪問者の身元をより正確に検証できる」と語る。

セキュリティ・アイデンティケーション・システムズ・コーポレーション社マーケティング責任者ヴァージニア・サヴィエット氏は、「来客管理システムを通じて、望ましくない訪問者の入館を阻止すれば、潜在的なリスクが低下する。当社の来客管理ソリューションは、外部の犯罪者と性犯罪者のリストや、内部の『出入り禁止』監視リストを使用した複数確認も可能だ。保安部門の能力を強化し、潜在的な脅威があるか望ましくない人物の施設への進入を防止することができる」と言う。

来客管理システムには通常、訪問者データの取得/保存/分析する構成機器を備えている。STOPware社営業&マーケティング担当副社長デビッド・ペンドレトン氏は、「最新の来客管理システムは、機密保持契約などの文書の承認と署名、性犯罪者スクリーニング・リストや政府発行の監視リスト等との照合など、訪問者に関する様々な情報を取得する。従業員データ・システムからアクセス・コントロール・システムに至る様々な外部システムとのリアルタイムな統合も、最新の来客管理システムに見られる重要な機能だ」と言う。

Teamgo社CEOスティーヴ・バレット氏は「当社は、iPadのようなコンシューマ向けハードウェアを活用して、デジタル来客管理システムを手の届きやすいものになっている。機器に元々搭載されている機能を利用して、訪問者からデータを収集し、写真を撮影し、同意書を画面に表示して署名を得た上で、訪問者の到着をスタッフに直ちに通知し、入館バッジを印刷することができる」と語る。

こうした機能により、オフィスは様々な面でスマート化する。例えば、業務効率が向上し、スタッフや従業員は少ない労力で多くの事を達成することができるようになる。

「訪問者への対応に要する時間を短縮し、業務効率を向上させる。来客管理は、約30秒で終了する3つの手順になり、操作者が訪問者IDや登録済みのバーコードをスキャンするだけで済む。訪問者自身が登録を行うキオスクを、受付係の代わり、あるいは受付係に追加する形で導入すれば、さらに自動化が可能だ。受付係に別の業務を担当させることができ、遠隔の拠点で受付係を雇う必要がなくなる」とペンドレトン氏は語る。

「データ収集から同意書の承認まで、訪問者の到着から入館までの時間を短縮し、効率が高まる。無人の受付デスクで訪問者に対応すれば、従業員の集中力が削がれることがなくなり、生産性も向上する」とバレット氏は言う。

データと来客管理システム

来客管理システムの利点は、業務効率の向上だけではない。システムで収集した訪問者データの活用も、企業にとり有効になる。「来客管理システムのデータには、生データ形式でもカスタマイズされたレポート形式でも、いつでもアクセスすることができる。一定の期間や特定の拠点での訪問者データを分析し、発見したパターンや矛盾に基づいて来客の登録や認証の手続きを最適化したり、拠点のセキュリティを見直したりすることができる。入手したデータは、様々な方法で訪問者を監視、分類するのにも役立ち、ホワイトリストやブラックリストなどの管理が可能になる。訪問者パスの発行が必要な頻繁な訪問者も特定することができる」とライバ氏は言う。

「データの分析を通じて、意味のある正確な意思決定を行うことができる。事実に基づく分析は、経営陣によるビジネス上の戦略的な判断や、新たな方向性の決定に役に立つ。訪問者の通行データを分析して、コスト削減、緊急事態対策の計画、詳しい調査の実施、時間と資源の有効活用、結果の推定、今後の動向予測、法令順守の徹底、カスタマ・エクスペリエンスの改善を行い、事実に基づく適切な意思決定に基づいて、高品質な製品やサービスを生み出すことができる」と、サヴィエット氏は語る。

“
来客管理システムには
通常、訪問者データを
取得/保存/分析する構
成機器を備えている。”





**63RD ANNUAL
SEMINAR AND EXHIBITS**

**SEPT. 25-28
DALLAS • TEXAS**

Your #1 resource for
industry knowledge,
professional development,
& security solutions.

Register Today!

URL : <https://securityexpo.asisonline.org/Pages/default.aspx>



セキュリティとIPの最新専門情報が集合

GDSF JAPAN 2017



開催概要



日時: 2017年9月14日(木) (10:00 ~ 18:00)

会場: 東京 秋葉原 UDX ギャラリー

入場: 事前登録制 (<http://www.asj-corp.jp/audience/form.html> よりお願いいたします。)
(無料)





会社名

株式会社 フォースメディア

所在地

〒141-0022
東京都品川区東五反田1-13-12 いちご五反田ビル 4F

電話番号 / FAX番号

TEL : 03-5798-5601 (代) FAX : 03-5798-5602

URL

<https://www.forcemedia.co.jp/>

問い合わせ先 / E-MAIL

<https://www.forcemedia.co.jp/inquiry>

事業内容

海外グローバルブランド・エレクトロニクス製品の輸入・販売自社オリジナルブランド「J-Force」による製造・販売

事業紹介

当社は、単に海外の優れた製品を日本市場にご紹介する商社としてだけでなく、日本国内のお客様に最適状態でお使いいただくことができるように、弊社で独自にハードウェア、ソフトウェアの品質評価、ソリューションの構築を行い、高品質のサービス、サポート体制と合わせて提供しております。監視カメラソリューション分野では、VIVOTEK社のネットワークカメラ製品群と同社のNVR(ネットワークビデオレコーダー)、そしてカメラへの電源供給可能なPoEスイッチなどの監視ソリューションを提供いたします。



出展製品

映像管理ソフトウェアVAST2



主な特長

「VAST 2」は、VASTの基盤となる強力なソフトウェア・エンジンをベースに、全く新しい直感的なユーザ・インタフェイスを採用し、自動セットアップ、高度な検索、カスタムレイアウトの他、フェールオーバー保護、トランスポート、トランザクション・ソリューションのための追加のアドオン機能など、ユーザ中心の機能を強化している。VAST 2は効率的な映像管理用に設計されており、セキュリティ運用者は運用・保守のコストを削減することができる。



会社名

Hi Sharp Electronics CO., LTD.

所在地

No.673, Changxing Rd., Bade Dist., Taoyuan City 334, Taiwan

電話番号 / FAX番号

TEL : +886-3-3653121 FAX : +886-3-365-8689

URL

<http://www.hisharp.com.tw/>

問い合わせ先 / E-MAIL

maxchen@hisharp.com.tw

事業内容

カメラ、DVR、IP、モニタ、工業用製品、モバイル機器

事業紹介

四つの経営理念「信心、誠心、耐心、恒心」を掲げ、長年監視システム産業の製品開発、生産、販売を一筋に、新製品と新技術の開発および技術向上にも力を入れている。優良品質の製品を製造し、お客様のニーズに合わせて迅速な技術サポートを提供している。当社は早くから世界の様々な認証を取得している。QA/QCに関するいくつかを紹介すると、ドイツTUV認証、アメリカUL及びカナダCSA認証、FCC、FDA、CE MARK認証、ISO 9001を取得している。生産工程に関しては、ISO14001およびTS16949 認証を取得し、効率よく高品質の生産ラインを実現している。

出展製品

360度カメラ



主な特長

1. 最大5メガピクセル
2. AHD 1080P出力
3. 360度および180度のパノラマビュー
4. 11ビュー・パターンを選択可能
5. IR到達距離 10メートル



会社名

三星ダイヤモンド工業株式会社
イメージングテクノロジー事業部

所在地

〒566-0034 大阪府摂津市香露園32-12

電話番号 / FAX番号

TEL 072-648-7526 FAX 072-648-7582

URL

<https://www.mitsuboshidiamond.com/>

問い合わせ先 / E-MAIL

<https://www.mitsuboshidiamond.com/contact/>

事業内容

当社のカメラ・システム・ソリューションは、自社独自製品からDahua社製品まで多種多様な幅広いニーズにお応えしています。

事業紹介

人間の目に代わる、或いははるかに超えるCMOS イメージセンサーカメラを開発し、世界の人々に「見る感動」を与えるのが私たちのビジョンです。

何よりも画質にこだわり、独自のノウハウで画質設計を行ったフルHDカメラで「見る感動」をご提供します。

カメラの製造販売だけでなく、システム構築を含めたトータルソリューションをご提供します。

国内自社工場での最終調整工程で、「日本の上質」を実現しています。



出展製品



主な特長

☆アナログHD 4K世代の映像監視へ☆

『4K HDCVIカメラ』『全方位同軸360°カメラ』『180°パノラマビューカメラ』また日本市場特有の『電源重畳PoC内蔵カメラでありながら超低照度域に強いStarlight(カラー 0.005lux)カメラ』等HDCVI4.0に進化した製品を展示します。

☆IP Networkカメラ伝送距離800m時代に☆

Networkカメラは100mが最大伝送距離のため 従来リピータやHUB等で延長をしていますが、『ePoEカメラ』は最大800mをリピータ無しで実現しています。これは煩わしい設置工事の簡略化だけでなく、メンテナンスにおいても大幅なコスト削減が期待できる、画期的な『ePoEカメラ』製品を展示します。

DAHUA TECHNOLOGY社は他社の追随を許さない最先端の技術力で日本の皆様の安心・安全をお届けします。



会社名

株式会社R.O.D

所在地

〒550-0012
大阪市西区立売堀1-7-18 国際通信社ビル6階

電話番号 / FAX番号

TEL : 06-6537-1233 FAX : 06-6537-1377

URL

<http://www.rodweb.co.jp/>

問い合わせ先 / E-MAIL

info@rodweb.co.jp

事業内容

世界初のNASベースNVR[VioStorシリーズ]を開発し、その周辺機器およびネットワークカメラを提供。ネットワークカメラを利用した防犯システム構築をサポート。

事業紹介

2003年設立の当社は世界初のNASベースNVR[VioStor-220]を開発し、NVR市場に新たな風を吹き込んだパイオニア的存在です。

その後、札幌、仙台、東京、名古屋、福岡、宮崎に営業所を設け、全国各地でネットワークカメラを利用した防犯システム構築をサポートしています。2013年には[VioStor-Pro+]シリーズを発売し、また、警備会社などが用いる本格セキュリティシステムにも対応する「DIGISTOR」を提供しています。



出展製品

AI画像検索 VS-AI



主な特長

- 登録し、分析された最大16台のネットワーク・カメラの過去画像を、指定されたキーワードを入力することで検索可能な装置です。ブラウザを使用し、アクセスを行うことで、その検索が可能となります。
- VioStorと合わせて使用し、連携すると、キーワード検索および前後の録画再生がシームレスに行えます。
- 動画のアップロードを行い、キーワード検索を行うことも可能です。



会社名

日本シーゲート株式会社

所在地

東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル

電話番号 / FAX番号

03-5462-2901

URL

<http://www.seagate.com/>

問い合わせ先 / E-MAIL

事業内容

内蔵および外付けハードディスクの提供

事業紹介

シーゲート社は、ストレージのリーダーとしての伝統に基づき、日々生み出される生きた情報をより上手く活用するという課題の解決に取り組んでいます。たったのひとつのストレージから始まった革新から、より高速で信頼性と拡張性に優れた様々なシステムやソリューションが生み出されてきました。ストレージはもはや、単に情報を保存するものではなく、素早く正確に、そして安全な形で情報にアクセスし、読み取るためのものなのです。



出展製品



主な特長

DVRおよびNVR向けに最適化されたSkyHawk™ 監視ドライブは、最高10TBの容量で、24時間365日のワークロードに対応します。高度なImagePerfect™ ファームウェアを搭載したSkyHawkは、デスクトップ・ドライブの3倍の作業負荷率、最高64台のHDカメラをサポートしながら全体の90%以上を記録に充てるよう設計されたIS対応機能により、コマ落ちやダウンタイムを最小限に抑えます。



会社名

Synology Inc.
(正規代理店 株式会社アスク)

所在地

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-21 山脇ビル11階
(株式会社アスク)

電話番号 / FAX番号

TEL : 03-5215-5650 FAX : 03-5215-5651 (株式会社アスク)

URL

<https://www.ask-corp.jp/products/synology/>

問い合わせ先 / E-MAIL

<https://www.ask-corp.jp/inquiry/synology.html>

事業内容

2000年設立のSynology は、クラウド時代のデータ管理、監視の実施およびネットワーク管理の方法を変革するネットワーク接続ストレージ(NAS)、IP監視ソリューションおよびネットワーク設備をユーザに提供します。

事業紹介

Synology(シノロジー)社は、性能と信頼性に優れ、環境にやさしいNASサーバを開発しており、幅広い製品ラインナップを取り揃えています。手軽で効果の高いソリューションと信頼できるカスタマーサービスを通じて、すべてのユーザーに多様な選択肢を提供しています。



出展製品

NVR1218 DS1817+VS960HD



主な特長

Surveillance StationはすべてのSynology NASで利用できるエラーに強い監視管理システムです。直感的な操作ができるインターフェイスから、複数のIPカメラよりライブフィードを監視や、録画を再生、カメラ設定の一括管理ができます。主要なブラウザやモバイル機器との互換性があり、どこにいても物理的環境を監視・保護が可能です。ご自宅の防犯対策や、小売店の店内監視、オフィスの入退室管理、病院や介護施設での病室監視などでもご利用いただけます。



会社名

TBTJAPAN株式会社

所在地

〒121-0071
東京都足立区東六月町5-4

電話番号 / FAX番号

TEL 03-6280-7112 FAX 03-6280-7139

URL

http://unv.tbj.jp

問い合わせ先 / E-MAIL

unv.info@tbtsys.com

事業内容

UNIVIEW社 IPカメラシステムの輸入・販売・アフターサービスを行っております。

事業紹介

IPカメラ専門メーカーとして、世界中でセキュリティソリューション事業を展開しているUNIVIEW社の製品を紹介しております。お客様に安心してご使用いただけるよう、日本国内で販売からアフターサービスまで自社で行っております。また、様々なニーズに合ったシステム構築のご提案もお手伝いさせて頂いております。



Better Security. Better World.

出展製品

UNIVIEW 4Kソリューション



主な特長

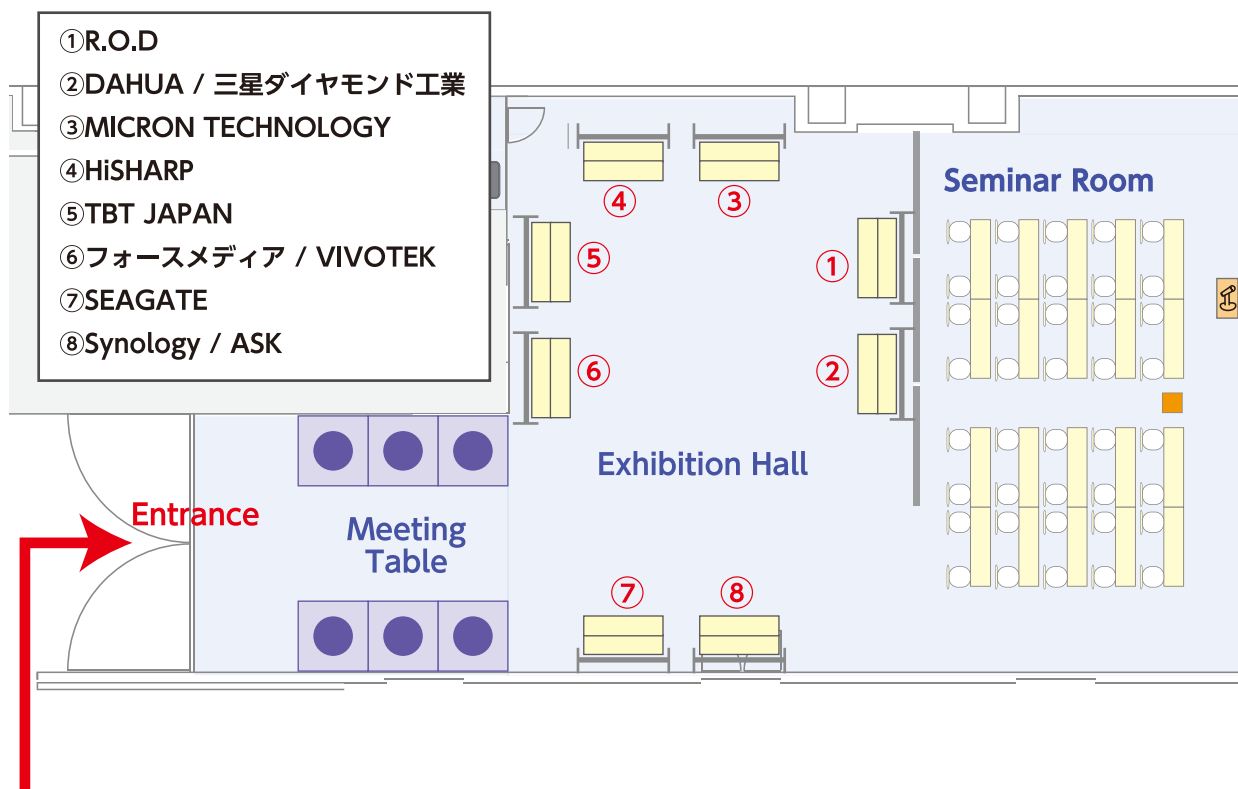
【UNIVIEW 4Kソリューション】

4KIPカメラとNVRを展示しています。また、UNIVIEW IPカメララインナップについて紹介しています。

【Ultra 265】

4Kシステムには欠かせない、高度なデータ圧縮技術について、UNIVIEW独自の技術を紹介しています。

GDSF JAPAN 2017 会場案内図



セキュリティ産業 にインテリジェンスを！

- ・アジア市場へのゲイトウェイ
- ・ICTとIoTテクノロジーの潮流とアプリケーション
- ・業種別市場向けインテリジェント・ソリューション
- ・異業種交流の恰好の機会

4つのキー・ テクノロジーの潮流

- ・ CompoSec：基幹構成部品
- ・ AIとインテリジェント映像解析
- ・ ICT伝送とLPWAN
- ・ IoTと物理的サイバーセキュリティ

5つのインテリジェント・ ソリューション 特設パビリオン

- ・小売
- ・工場
- ・交通
- ・医療
- ・移動性

400社超の価値ある出展企業

各国からの出展：中国、韓国、日本、台湾、シンガポール、マレーシア、米国、英国、ドイツ、その他

出展製品：管理ソフト、監視機器、アクセス・コントロール、基幹構成部品、警報器、伝送機器、IoT、センサ、移動体通信、スマートホーム、消防、防災など

VIP プログラム

今すぐ登録で、
ホテルクーポンを獲得！



<https://goo.gl/nLgfKw>

本日登録できます



www.secutech.com

同時開催

SM home
powered by Secutech

fire & safety
powered by Secutech

info security
powered by Secutech

9月

IFSEC Southeast Asia

会期:2017年9月6日 - 8日

会場:クアラルンプール・コンベンション・センター

マレーシア クアラルンプール市

主催:United Business Media (M)

SDN BHD

URL: <http://www.ifsec.events/sea/>**GDSF JAPAN 2017**

会期:2017年9月14日

開場:14日:13:00 - 18:00

会場:UDX GALLURY

主催:ASJ合同会社

URL: <http://www.asj-corp.jp/>**ISAF Istanbul**

会期:2017年9月14日 - 17日

会場:イスタンブール・エキスポ・センター
トルコ イスタンブール市

主催:Marmara Fair Organization

URL: <http://www.isaffuari.com/en/>**ASIS 2017**

(ASIS International 63rd Annual Seminar and Exhibits)

会期:2017年9月25日 - 28日

会場:ダラス展示会場

米国 テキサス州 ダラス市

主催:ASIS International

URL: <https://securityexpo.asisonline.org/Pages/default.aspx>

10月

CEATEC JAPAN 2017

会期:2017年10月3日 6日

開場:10:00 - 17:00

会場:幕張メッセ

主催:CEATEC JAPAN 実施協議会

一般社団法人電子情報技術

産業協会(JEITA)、

一般社団法人情報通信ネットワーク

産業協会(CIAJ)、

一般社団法人コンピュータソフト

ウェア協会(CSAJ)

URL: <http://www.ceatec.com>**CPSE (China Public Security Expo)**

会期:2017年10月29日 - 11月1日

会場:深圳コンベンション&エキジビション・センター

中華人民共和国 深圳市

主催:Shenzhen CPSE Exhibition co.,Ltd

URL: <http://www.cpse.com/>

11月

関西 オフィスセキュリティ EXPO

会期:2017年11月15日 - 17日

開場:10:00 - 18:00

会場:インテックス大阪

主催:リード エグジジション ジャパン

URL: http://www.osec.jp/Home_kansai/**SECUTECH THAILAND 2017**

会期:2017年11月16日 - 18日

会場:BITEC(バンコク国際貿易展示場)
タイ バンコク市

主催:Messe Frankfurt New Era

Business Media

URL: <http://secutechthailand.tw.messefrankfurt.com/bangkok/en/visitors/welcome.html>**Embedded Technology 2017 /****組込み総合技術展**

会期:2017年11月15日 - 17日

開場:10:00 - 17:00

会場:パシフィコ横浜

主催:組込みシステム技術協会

URL: <http://www.jasa.or.jp/expo/>**IoT Technology 2017**

会期:2017年11月15日 - 17日

開場:10:00 - 17:00

会場:パシフィコ横浜

主催:組込みシステム技術協会

URL: <http://www.jasa.or.jp/expo/>**Inter BEE 2017**

会期:2017年11月15日 - 17日

開場:10:00 - 17:30(最終日は17:00)

会場:幕張メッセ

主催:一般社団法人 電子情報技術産業協会

URL: <http://www.inter-bee.com/ja/>**HOSPEX Japan 2017**

会期:2017年11月20日 - 22日

開場:12:00 - 18:00(20日)、
10:00 - 17:00(21 - 22日)

会場:東京ビックサイト

主催:日本医療福祉設備協会

日本能率協会

URL: <http://www.jma.or.jp/hospex/>**HOSPEX Japan 2017**

会期:2017年11月20日 - 22日

開場:12:00 - 18:00(20日)、
10:00 - 17:00(21 - 22日)

会場:東京ビックサイト

主催:日本医療福祉設備協会

日本能率協会

URL: <http://www.jma.or.jp/hospex/>**第5回鉄道技術展2017**

会期:2017年11月29日 - 12月1日

開場:10:00 - 17:00

会場:幕張メッセ

主催:フジサンケイ ビジネスアイ

URL: <http://www.mtij.jp/>

2018年1月

INTERSEC

会期:2018年1月21日 - 23日

会場:Dubai International Convention
and Exhibition Centre

アラブ首長国連邦 ドバイ首長国

主催:Messe Frankfurt New Era

Business Media

URL: <https://www.intersecexpo.com/>

3月

SECURITY SHOW

会期:2018年3月6日 - 9日

開場:10:00 - 17:00

会場:東京ビッグサイト、

主催:日本経済新聞社

URL: <https://messe.nikkei.co.jp/ss/>**リテールテックJAPAN**

会期:2017年3月6日 - 9日

開場:10:00 - 17:00

会場:東京ビッグサイト

主催:日本経済新聞社

URL: <https://messe.nikkei.co.jp/rt/>

a&s JAPAN 電子版

定期無料購読のご案内

簡単な手続きで毎号お読みいただけます



① <http://www.asj-corp.jp/>にアクセス

② このバナーをクリック



③ 登録画面の全項目にご記入

④ 「送信する」をクリック

⑤ 登録完了メールをお送りします

最新号発行のたびに
アクセスするURLをお送りします

差出人: セキュリティ国際情報誌 a&s JAPAN <info@asj-corp.jp>
件名: a&s JAPAN電子版 最新号発行のお知らせ!
日時: 2013年3月27日 (木) 15:00
宛先: info@asj-corp.jp

本メールは、弊社HPよりa&s JAPAN 電子版に読者登録された方
イベント会場にて電子版代行登録を希望された方に送信しております。

◆◆a&s JAPAN 電子版 3/4月号発行のお知らせ◆◆

セキュリティ国際情報誌 a&s JAPAN【電子版】を発行いたしました!
下記アドレスよりアクセスをお願いいたします!

<http://www.asj-corp.jp/201302271830/no33.pdf>

a&s JAPAN (ASJ合同会社)

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-7-1 ウィン神田ビル10階 TEL.03-6206-0448 FAX.03-6206-0452

マンション管理会社はセキュリティの知識を習得すべき

最近、マンションに防犯カメラが設置されていることが、一般的というよりも絶対必要な要件とまで言われてきている。しかし、マンションの管理組合では専門的なことが分からず、結果として管理会社に丸投げあるいは管理会社が既に取引している業者を紹介され、その業者の言いなりになっていることが多いと聞く。その典型的な例を紹介する。数年前にネットワークカメラを導入して、それから数年後にカメラを増設することになった。管理組合ではわからないので管理会社に相談をしたところ、アナログカメラしか扱っていない業者を紹介された。その業者は、旧来のアナログカメラ・システムをかなりの金額で提示した。管理組合はリースを利用して導入した。その結果、ネットワークカメラとアナログカメラの2つのシステムが並行して作動するという滑稽な現象となった。マンション管理会社を無条件にプロだからと信じて導入をした管理組合が惨めでならない。

こういう事態を招いた管理会社は、全体のほんの一部でなく相当数存在する。後で問題点を指摘されて困らないよう、彼らは常に最新のセキュリティ情報を収集すべきだ。
(東京 システム構築)

メーカーは、ハードウェア/ソフトウェアの不備への対応をオープンにして迅速な対応を

デジタル製品は、完成した段階でもまだ問題が発生することがある。ましてや、ソフトウェアやファームウェアに基づく不備が後日分かることも決して珍しくない。しかし、不備や問題が発覚した場合にどのように対応するかは、セキュリティ製品では殊の外重要となる。もしその不備に乗じられて情報を取得され、あるいは遠隔操作を勝手に行われると、その被害は計り知れない。

数年前、ネットワークカメラのパスワード設定がなされていないため、監視カメラ映像がダダ漏れとなり公開されたことを記憶されている方も多いだろう。その後もハードウェアやソフトウェアまたはファームウェアで様々な問題が発生している。メーカーであれば、社会的責任はもちろんセキュリティ製品メーカーとしての責任を切実に考えていただきたい。
(千葉 サービス業)

一般ユーザの監視システムのネット販売の利用は、サポート体制を確認しよう

個人や小規模オフィスなどで使用する監視システム製品は、ネット販売で簡単に入手することができる。一般ユーザがネット販売で購入し、DIYで設置する事例も少なくないようだ。

しかし、問題は価格ではなく、購入後のサポート体制がどこまで整備されているかだ。簡単な問題はウェブ上でのFAQでの対応が可能だろう。また、設置上の注意事項も画像を駆使して可視化して理解を高めることもできる。

では、ネット販売業者はどこまでサポート、いや面倒を見てくれるのだろうか。現実はまだそれほど普及していない。一般ユーザは、この点を考慮してネット販売を利用することが重要だ。
(埼玉 電気工事業)

「読者の声」を募集しています。

本誌では、セキュリティに関する読者の皆様のご意見やご提案を募集しています。セキュリティ機器やシステムを供給している側、セキュリティ・システムを既に導入あるいは導入を予定している側、いずれの側からの応募をお待ちしています。ただし、特定企業や団体または個人に対する誹謗中傷または批判的な内容をご遠慮ください。

一例を挙げると、導入する場合の手順はどのように進めれば良いのか。導入前の事前説明についてはどこに相談すべきなのか。メーカーなのか販売会社なのか、システム構築企業や設置施工企業なのか、それともセキュリティ・コンサルタント企業なのか。セキュリティに関する疑問や意見また提案など、セキュリティ関連であれば詳細は問いません。掲載する場合は匿名扱いとしますので、個人情報や漏洩することはありません。

なお、具体的な導入相談については、導入条件や環境についてできるだけ具体的な内容をご連絡ください。ご応募をお待ちしております。



a&s JAPAN編集部

TEL : 03-6206-0448

FAX : 03-6206-0452

MAIL : info@asj-corp.jp

第26回 セキュリティ・安全管理総合展

SECURITY SHOW 2018



日本のセキュリティが進化する4日間

2018年 3月6日(火) ▶ 9日(金)

..... 10:00~17:00 (最終日は16:30まで)

東京ビッグサイト [東7・8ホール]

主催：日本経済新聞社

お問い合わせ先：日本経済新聞社 文化事業局 イベント事業部

Tel : 03-6256-7355 info@securityshow.jp

出展者募集中

申込締切日：2017年10月16日(月)

詳細は <http://www.securityshow.jp/> まで

次の扉へ。

超高速 顔/指紋認証技術を採用した
入退室管理システム販売開始。

FaceStation2

IP顔認識ターミナル



BioEntry W2

屋外IP指紋認証デバイス



BioStation L2

IP指紋認証ターミナル



Xpass S2

IP RFIDデバイス

株式会社店舗プランニングは、世界最高レベルの超高速顔認証技術を採用した製品「FaceStation2」をはじめとする入退室管理システムを販売開始いたしました。

当社で長年の経験を持つ防犯・監視カメラシステムに、入退室管理システムをラインアップし、より幅広いセキュリティ・ソリューションのご提案を目指していきます。

■ 製品のお問い合わせ・カタログのご請求は

TENPO PLANNING 株式会社 店舗プランニング
セキュリティ事業本部

東京本社
〒151-0061 東京都渋谷区初台1-46-3 シモモビル2階
TEL:03-3378-4901 FAX:03-3378-4906

関西支店(大阪) / 仙台営業所 / 名古屋営業所 / 広島営業所 / 福岡営業所 / 技術センター(千葉) URL: www.tenpo.co.jp